

ト認ムトナシ

伊國代表ハ先ツ同國ハ六月八日一般的留保ヲ爲シ居リ從テ何等責任ヲ負ハサルモノナルカ其ノ後態度ヲ變更スヘキ事情ヲ見スト述ヘ平和條約上特殊ノ地位ニ立ツ國ノ參加ナクハ取極ハ實效ナカルヘク又監督ノ前提トシテ一般條約成立ノ必要アルヲ説キ

*事項編注

一 本件會議については、同會議我が方全權団作成の會議報告書が『日本外交文書 國際連盟一般軍縮會議報告書(全三卷)』として復刻・刊行されており、欧州主要国間外交交渉の経過や一般委員会をはじめとする各委員会の討議内容の詳細などについては、同書参照。

二 本事項収録文書の冒頭に十印のあるものは、外交史料館所蔵の条約局第三課作成調書「一般軍縮會議 帝國全權宛電報」より採録した。

瑞典代表ハ議長案及米案ニ同意シ佛國代表「マシグリ」亦簡單ニ議長案ニ贊成シ同國ハ右三點ニ付協力シ來レリト述ヘ最後ニ議長ハ委員會ノ空氣ヲ賞讃シ今後ハ十一月五日會商ノ趣旨ニテ進ムヘク何等カノ結果ニ到達スル迄努力スヘキ旨ヲ宣シ閉會セリ
在歐米大使ニ郵送セリ

三 欧州政況關係

66 昭和9年1月17日

在ポーランド伊藤公使より
広田外務大臣宛(電報)

独・ポーランド接近問題等につき在ポーランド
各国外使より聞込みについて

ワルシャワ 1月17日後發
本 省 1月18日前着

第四號(極秘)

往電第三號冒頭ニ關シ

當國現下ノ對外的地位ハ相當困難ナルモノアリ外相力約シタル外交報告ニ關スル演說ヲ二度モ延期シタル如キ這般ノ消息ヲ語ルモノト認メラルルカ對外政局ニ關シ着任以來接觸シタル方面ノ談ヲ綜合スルニ

一從來ノ關係ヨリ見テ世人ノ意外トスル波獨最近ノ接近ニ關シ當事者タル「ベック」外相ハ本使ニ對シ成功ノ原因トシテ「ヒットラー」執權以來獨政府力從來ノ政府ノ遺口ト異リ「プロシヤ」ノ利害ノミヲ考慮セサルニ至リタルニ依

ル旨語レルカ獨逸カ如何ナル打算ヨリ此ノ政策ヲ執リタルヤニ關シ當地ニ於テハ二見解アリ佛國カ近來東歐ニ對シ冷淡ナル(ニ)乘シ波蘭ヲ佛ヨリ乖離セントノ魂膽ニ出テタルモノト爲スモノ(英大使)獨逸カ「ヒットラー」執權以來標榜セル東方進出策ニ基クト爲スモノ(土耳其大使)之ナリ蓋シ本使ハ後者ヲ以テ真相ニ觸レタルモノトス

二獨逸ノ東方進出策カ如何ナルヤハ不明瞭ナルモ英佛大使ノ確言スル所ニ依ルモ波蘭カ「コリドール」問題等ニ關シ和平的ニ讓歩スルコトナキハ明カナルヲ以テ獨逸ハ此ノ事情ヲ際シ速急ニ此ノ方面ノ進出ヲ主張セサルヘク從テ土耳其大使ノ見解ノ如ク早晚尅大ナル露國カ崩壞スルモノト見其傾向ヲ助長シ瓦解ヨリ生スルコトアルヘキ獨立國ニ對シ經濟的乃至政治植民地的ニ手ヲ延ハサントスルモノト解スル方適當ナルヘシ

三波獨接近ノ事情右ノ次第ナルヲ以テ露國ハ非接近ニ對シ非常ナル不満ヲ拘クニ至レル趣ニテ「ソ」公使モ此ノ事實

「バルチツク」諸國其他ニ對シ本使カ是ニ關シ同僚ヨリ聞
キ得タル情報要點左ノ通

一、獨逸ハ「ヒットラー」執權以來歐洲各國ヨリ危險視セラ
レ又ハ其ノ反對ニ會ヒ全然孤立ノ地位ニ立チ(伊國ハ多
少別トスルモ)此ノ狀態ヨリ脱却セント計レルモ(昨年十
一月「チエツコスロバキア」ニ對シ提議ヲ爲シタル如キ)
何レモ進ミテ之ヲ援助セントスル國ナカリシニ今回波蘭
ハ獨逸ノ孤立ヲ救ヒ獨逸カ世界ニ對シ其ノ平和宣言ノ誠
實ナル確證ヲ提供スル機會ヲ與ヘタルモノニシテ獨逸ト
シテ成功ナリト思考スルモノ多數ナリ

二、獨逸政府ハ常ニ東方國境改定ヲ主張シ特ニ「ヒ」政府ハ
東進政策ヲ高唱シタルニ今急ニ右宣言ヲ爲スニ至リタル
ハ前記(一)ノ理由ノ外獨逸ハ目下其ノ外交工作ノ中心ヲ軍
備制限ノ撤廢ニ置クト同時ニ「ザール」問題特ニ奧太利
合併問題ノ解決ニ全力ヲ盡サントノ意向ニ基クヘシト觀
察スルモノ鮮カラス

波蘭ヨリ見レハ自國ヲ「セイゾンスタート」トシテ輕蔑
シ居タル獨逸カ今回他國並ノ國家トシテ取扱ハルルハ非
常ニ重要視スル所ニシテ爲ニ波蘭獨立以來極度ニ緊張セ

ヲ裏書スル如キ口吻ヲ洩セリ)往電第二號露國ノ提議ハ波
獨接近ノ對抗策トシテ波蘭ヲ獨逸ヨリ切離サン爲サレタ
ルモノト見ルコトヲ得ヘシ(土大使)此ノ點ニ關シ當國當局
(「ピ」元帥^(帥)ノ股肱ノ一人東方局長ト會談ノ際ノ如キ)ハ言
明ヲ避クルモ英大使ノ如キハ其ノ事實ナルヲ確信シ居レリ
四、日蘇關係ニ關シテハ當地ニ於テ一般非常ナル關心ヲ以テ
注視シ居ルコト豫想外ナルモノアリ新聞記者ハ勿論佛土大
使等頻リニ日蘇關係ノ現狀ニ付本使ノ説明ヲ求メ(米國承
認ノ影響日蘇衝突ノ歐洲ニ及ホス影響等)タルカ日蘇關係
ニ關スル彼等ノ(說)「リトビノフ」等ノ演説アルモ「ソ」
ハ我國ニ對シ攻撃ニ出ツル意思無シト觀際^(観)シ居リ本使ヨリ
度々水ヲ向クルモ當國ノ狀況ニ關シテハ言明ヲ避ケタル
「ベ」外相モ露國ニ日本攻撃ノ意思ナキヲ信スル旨述ヘ居
レリ(往電第三號御參照)

五、向日蘇衝突アリト假定シ其衝突ヲ最モ歡迎スルモノハ獨
逸及米國ナリトシ殊ニ米國ハ斯ル場合双方ニ武器及物質ヲ
供給シ以テ沈滞セル工業ヲ救済スルト同時ニ日本カ假令勝
利ヲ得ル場合ニ於テモ當分米國ニ對抗スル氣勢ヲ減殺シ得
ルモノト期待スト爲ス者當地ニ於テハ新聞書者以外ニモ鮮

カラサルハ注意ヲ要ス(「カルジナル、カコフスキー」土耳
古大使等)

右ノ如ク日蘇關係ハ目下當地各方面注視ノ焦點トナリ居ル
ヲ以テ今後モ度々之ニ關スル質問ヲ受クルモノト思考セラ
ルルニ付此ノ點ニ關シ本使ニ於テ心得置ク可キ點隨時御訓
電ヲ請フ

英、佛、獨、露ヘ轉電シ「ラトヴィヤ」、芬蘭ヘ暗送セリ

昭和9年2月1日 在ポーランド伊藤公使より
広田外務大臣宛(電報)

獨・ポーランド不可侵條約の裏面事情および
關係諸國への影響につきベック外相ならびに
在ポーランド各国大使より聞込みについて

ワルシャワ 2月1日後發
本 省 2月2日後着

第一〇號(極秘)

獨逸大使發貴大臣宛電報第一七號ニ關シ
波蘭政府ハ一兩日(前)ヨリ關係國使臣ニ對シ説明ヲ與ヘタ
ルカ(「ピ」元帥^(帥)ヨリ同盟タル佛國羅馬尼ニ又外相ヨリ露國

ル波獨關係ヲ緩和シ得タルハ波蘭トシテ成功ノ點ナリ唯
其ノ結果佛並小協商國トノ關係ニ影響ヲ及ホスコトアル
ヘキヲ恐ルル者鮮カラス現ニ「ピ」元帥ハ佛波兩國關係
ハ之カ爲何等變更ヲ受クルモノニ非スト佛大使ニ明言セ
ル旨同大使ヨリ内話アリタルモ小協商公使ノ如キハ必ス
シモ満足シ居ラサル様見受ケラレタリ

四、露國公使自身ハ本使ニ對シ獨乙カ南下策ニ轉向セントス
ルモノナルト同時ニ歐洲平和維持ニ一步ヲ進メタルモノ
ナレハ露國トシテ結構ノコトナリト述ヘ居タルモ一般ノ
觀察スル所ニテハ露國ハ内心(獨)波接近ニ對シ面白カラ
ス感シ居ルヘシトナセリ尚伊國大使ノ如キハ獨逸ハ此ノ
機會ヲ利用シ波蘭ノ仲介ニヨリ對蘇關係ノ改善ヲ計ラン
トノ意嚮ヲ有スルニ非サヤト想像シ居リ「バルチツク」
諸國ノ公使連モ獨逸カ斯カル意嚮ナルニ於テハ波蘭ハ其
勞ヲ取ルナラント語リタルカ其效果ニ關シテハ何レモ疑
問ヲ抱キ居レリ

佛、獨ヘ轉電シ英、伊、羅、「チエツコ」、「ラトヴィヤ」
ヘ暗送セリ

68 昭和9年2月5日

在オーストリア松永(直吉)公使より
広田外務大臣宛(電報)

オーストリアの独立保持問題を中心とした中
歐政局に対する伊国側の各種策動について

ウィーン 2月5日後発

本省 2月6日前着

第三號

往電第一號ニ關シ

獨逸關係ノ裏面トシテ消息通ノ觀察スル所ニ依レハ伊國ハ
大戰後獨逸ニ勢力ヲ伸ハサント欲シ努力ノ結果近年獨逸内
ニ著シク潛勢力ヲ有スルニ至リタルモノナルヲ以テ獨逸紛
争ニ對スル關心ハ英佛ニ比シ甚タ痛切ナルモノアリ旁客年
十二月下旬「シュビヒ」伯林訪問ノ際中歐問題ノ解決ニ關
シ獨逸政府ト協議セシメタルモ何等效果ヲ收メサリシヲ以
テ當時進行中ナリシ獨逸間ノ直接交渉ニ依リ妥協成立ノ場
合ハ獨逸ノ勢力ノ獨逸ニ侵入センコトヲ惧レ右交渉ヲ決裂
セシムル爲「ファイ」一派ヲ支持シ遂ニ「ド」政府ヲシテ
獨逸安協ヲ排シ「ナチ」彈壓ヲ聲明セシムルニ至リタルモ
ノニシテ次イテ一月中旬「シュ」カ當國訪問ノ際當國ノ獨

について

パリ 2月7日後発

本省 2月8日前着

第六六號

往電第六二號ニ關シ

「ダラデイエ」内閣ハ六日午後議會ニ臨ミ施政方針トシテ
各黨派代表者ヨリ成ル調査委員會ヲシテ「スタヴイスキー」
事件ノ真相ヲ明カニセシメ三月一日前ニ本年度豫算ノ協賛
ヲ得飽迄法ノ價格ヲ維持シ「コンペイセイション」ヲ基礎
トスル通商協定ニ依リ輸出入ノ「バランス」ヲ改善スヘキ
旨簡單ニ聲明シタリ(外交ニ就イテハ目新シキコトヲ述ヘ
居ラス)

下院ニ於テハ右聲明ニ際シ右派及共產黨議員ノ反對等ノ爲
非常ナル混亂ヲ來シ首相ハ遂ニ二十八人ノ質問演説ノ延期ヲ
要求シ之ヲ信任投票ニ懸ケ右要求ハ社會黨側ノ支持ノ下ニ
三四三票對二三七票ヲ以テ可決サレタリ

尚市内ニハ數日來在郷軍人團右系分子等ノ「ダラデイエ」
内閣乃至議會反對ノ示威運動行ハレ來リシカ六日夜右下院
ニ於ケル議事ト同時ニ行ハレタルモノハ猛烈ヲ極メ共產黨

立擁護ヲ高調シタルモ「ド」政府ノ對獨態度ヲ硬化セシム
ル趣旨ニ出テタルモノト認ムヘク「ファイ」一派ノ後ニ伊
國ノ支持乃至諒解アルコト明カニシテ從テ獨逸ノ對立ハ獨
伊ノ確執ヲ來タシ延テ歐洲政局ノ重大ナル動搖生スルコト
無キヲ保シ難シト觀セラル

尙中歐問題ニ關スル伊國側ノ解決案ニ付テハ其ノ經濟的部
分ハ最近所謂「ドナウ、メモランダム」トシテ世上傳ヘラ
レ居ルモ其ノ政治的部分ハ絕對秘密ニ附セラレ居ル處伊國
ハ「ユーゴスラビヤ」ヲ北ヨリ抑ヘントスル底意モアリ旁
「ハプスブルグ」王家復辟ノ下ニ獨逸兩國ノ政治的結合ヲ
復活セントスルノ案ヲ有シ「シュ」今回ノ獨逸訪問ノ政
治的意義ノ一部モ此ノ邊ニアリトノ聞込モアリ來ルヘキ
「ド」(一月上旬)及「シュ」(二月下旬)ノ洪國訪問ハ特ニ重
視スル向多シ
英、伊、佛、獨へ暗送セリ

69 昭和9年2月7日

在仏国佐藤大使より
広田外務大臣宛(電報)

仏国におけるダラデイエ内閣打倒運動の勃発

分子モ加ハリ下院ニ押掛ケントシテ警團側ト衝突ヲ來シ遂
ニ雙方銃火ヲ交フルニ至リ三十名ノ死者數百名ノ負傷者ヲ
生シタリト傳ヘラル

壽府及在歐各大使へ郵送セリ

70 昭和9年2月19日

在独国永井(松三)大使より
広田外務大臣宛(電報)

オーストリア問題に対する独国側主張について

ベルリン 2月19日後発

本省 2月20日前着

第三九號

獨逸問題ニ對スル當國ノ主張ハ獨逸ノ民意ハ最早國粹
社會主義ニアリ從テ之ヲ抑壓シツツアル獨逸現政府ヲ援
助スルハ内政干渉ナリトナスニアルハ累次電報ノ通ニシテ
當國ニ於テハ同政府今回ノ社會民主黨彈壓ニ對シテハ獨逸
利勞働大衆ハ其ノ反動トシテ國粹社會黨ニ走ルヘク從テ益々
獨逸「ナチ」ノ勢力ヲ増大スヘシトナシ居レリ而シテ當
國政府ハ獨逸ニ對シテ暴力ヲ加ヘ又ハ國際條約ニ違反ス
ルノ意無キヲ宣言シ居レリト雖當國トシテハ獨逸ニ獨逸

ト共同ノ民族觀念及政治的主義ニ立テル「ナチ」政權樹立セラルルニ於テハ所謂「グライヒシヤルトウング」ニ依リ獨逸統治ヲ實現シ得ヘシト見居ルハ勿論ナル處奧太利ノ獨立ニ關スル伊國佛國英國今回ノ共同宣言ニ關シテハ當國新聞ハ之ヲ以テ奧太利ノ「ナチ」化ハ其獨立ヲ害スルモ奧太利「ファシスト」ノ伊國ヘノ依倚ハ其獨立ニ害無シトナスモノニ外ナラストナシ伊國モ獨逸合併禁止條項改訂ニハ反對ナルコトヲ擧ケ同國ノ奧太利「ハンガリヤ」伊國三國羅馬會議ノ計劃ハ多クヲ物語ルモノナリトナシ居レリ
奧、英、佛、伊へ郵送セリ

71 昭和9年2月20日

在伊國松島(肇)大使より
広田外務大臣宛(電報)

オーストリア問題への独逸側関与に対する伊
國側反発について

付記一 二月二十日発在英國安藤(利吉)大使館付武官

より植田(謙吉)参謀次長宛電報第六号
オーストリア独立保全に関する英仏伊三国共同宣言案に対する英國側対応について

小協商國側ノ關與ヲ惧レテ英佛伊ニテ一應之ヲ處理スルニ至レルモノノ如ク當地外國通信員中ニハ今回ノ暴動ハ寧ロ伊國「ファシスト」黨カ佛國ノ政變ヲ機トシ「ファシスト」ノ擡頭ニ乘シ奧太利「ファシスト」ニ指令ヲ發シ「ド」現政府ヲシテ「ファシスト」政府ヲ樹立セシメント畫策セルニ基クモノナル處他方獨逸及小協商國側ニ於テハ奧太利「ナチス」黨又ハ社會民主黨ヲ支持スルノ態度ヲ取ル關係上奧太利ノ内政ノ推移如何ニ依リテハ歐洲政局ニ著シキ危険ヲ來ス可シト見ル者アリ右御參考迄
在歐各大使、奧、「チエ」へ暗送セリ

(付記二)

ロンドン 2月20日後6時47分發
参謀本部 2月21日前6時30分着

第五號

英國政府ハ伊國ノ提唱セル獨逸獨立保全ニ關スル英佛伊三國共同宣言案ニ對シ慎重ナル態度ヲ保持シアリシカ提案後約二週間ヲ經タル後該案ニ修正ヲ加ヘ英國カ將來紛争ノ渦中ニ投入スル虞ナキ如ク改メ單ニ獨立保全及内政不干渉ニ関

二 三月六日発在伊國中村(正雄)大使館付武官より
植田参謀次長宛電報第三六号
オーストリア國境方面に展開された伊國陸軍部隊の状況について

ローマ 2月20日後發
本省 2月21日前着

第一七號

奧太利ニ於ケル暴動ニ關シ當國ニ於テハ「ドルフス」政府ハ一應落着キ且十八日奧太利ノ獨立保全ニ關スル三國ノ協同聲明行ハレタルニ依リ安堵ノ色ヲ示シ居レルカ從來獨逸ニ對シ友好的論調ヲ取り居タル當國新聞ハ之ヲ一變シテ獨逸ノ奧太利内政關與及奧太利社會民主黨ニ對スル好意的態度ヲ攻撃シ獨逸ハ奧太利ノ獨立保全ト其ノ隣國トノ友好關係ハ歐洲政局ノ均衡上絕對ニ必要ナル事並ニ右ハ伊國ノ堅持スル外交政策ナル事ヲ知ラサル可カラス等論シ居レリ伊國トシテハ奧洪兩國ヲ連衡シテ獨逸及小協商國側ニ對抗上奧太利ノ獨立保全ハ勿論現「ド」政府ノ維持ヲ必要トシ奧太利カ獨逸ノ干渉ニ對シ聯盟ニ訴ヘントスルニ對シテモ

シ共同宣言ヲ爲セリ

輿論ハ内政不干渉ノ意義ニ關シ單ニ獨逸ノミヲ目標ト爲スモノニアラサル点ヲ高調シ暗ニ伊佛兩國特ニ伊國ノ干渉ヲ豫防スルノ趣旨ヲ論シアリ

(付記二)

ローマ 3月6日後6時30分發
参謀本部 3月7日前9時5分着

第三六號

一、伊國國境ノ伊國軍三軍團ハ依然應急ノ姿勢ニ在リ第二線兵團ノ態勢亦依然既報ノ如シ
尙最近塞國武官ノ情報ニ依レハ「ブレシヤ」ニハ飛行機二聯隊(十二中隊)集中シアルモ右ハ主トシテバヒヒトノ二月二十八日ヲ期限トシテ奧國政府ニ送リタル最後の通牒ニ應セントスルモノニシテ形勢ノ緩和ト共ニ舊態ニ復スヘシ

二、伊國陸軍當局ハ右兵團ノ配備ハ佛國ノ諒解ノ下ニ實施セリト各方面ニ内話シアルモ當地佛國武官ハ之ヲ否定セリ

72 昭和9年2月23日 在ポーランド伊藤公使より
広田外務大臣宛(電報)

ベック外相の訪ソ目的などに関し同外相より
聞込みについて

ワルシャワ 2月23日後発
本省 2月24日前着

第一六號(極秘)
往電第一二號ニ關シ

「ベック」外相ハ十六日夜歸「ワ」セルカ莫斯科ノ空氣ハ
往電第一五號所報ノ次第ナリシヲ以テ外相自ラ本使ニ語レ
ル通り同氏ハ莫斯科ニテ非常ナル歡迎ヲ受ケタル由尙「ベ」
外相會談ノ内容ハ大体大田大使發貴大臣宛電報第七九號
「コムミニケ」ノ如クナルカ各方面ノ情報ヲ綜合スルニ
(一)、先ツ獨波宣言ニ對スル蘇政府ノ疑惑ヲ一掃スル爲説明
ヲ與ヘタル外波蘭政府トシテハ蘇トノ平和關係維持ヲ重視
スル旨力説

其ノ結果昨年三年間ノ期限ヲ以テ締結セラレタル不侵略條
約ヲ成ル可ク永キ期間延長スヘキコトヲ主義上決定シ兩國
公使ヲ大使ニ昇格ノ上之ヲシテ右ノ交渉ニ當ラシムルコト

ニ於テ波蘭ノ關スル限り困難ヲ生セサル保障ヲ得タル次第
ナリ
露、獨へ轉電シ英、佛、「ラトヴィヤ」、羅馬尼、瑞典へ暗
送セリ

73 昭和9年3月1日 在仏国佐藤大使より
広田外務大臣宛

独・ポーランド不可侵條約締結に対する仏国
各紙の報道振りについて

公第一三七號 (4月2日接受)

昭和九年三月一日

在佛 特命全權大使 佐藤 尚武(印)

外務大臣 廣田 弘毅殿

獨波不侵略協定ニ関スル佛紙論調報告ノ件

一月二十六日締結セラレタル獨波協約ニ付テハ其ノ当国外
交政策ニ影響スル所多大ナルニ鑑ミ当地各新聞紙ハ概ネ論
評ヲ加ヘ居ル処一方ニハ右協約ニ依リ東欧地方ノ最大難関
タリシ獨波關係ガ好轉ヲ示シタル事ハ疑ヒナク波蘭ノ同盟

ニ協定成レリ此ノ點ハ大田大使ノ電報ニハ省略セラレ居ル
モ「ベ」外相カ蘇聯邦政府ト協議セル最重要ナル點ト思考
セラル

(一)、次ニ波羅の「パクト」ニ關シ話合アリタルハ勿論ナル
カ蘇政府提案ニ從ヘハ露骨ニ獨逸ニ對抗スルコトナリ波
羅の諸國モ之ヲ喜ハサル狀況ナルニ鑑ミ波蘭トシテハ斯ノ
如キ差障リヲ避ケタル形式ニテ同趣旨ノ「パクト」ヲ締結
スル様研究ヲ爲サン方針ニテ話合ヲ爲シタル趣ニテ「コム
ミニケ」ニ發表スル迄ノ運ニハ至ラザリシ由

(二)、斯ノ如ク「ベ」外相蘇訪問ノ主要ナル效果ハ蘇波兩國
間ノ不侵略條約ヲ延長スル點ニシテ其ノ結果波蘭政府カ蘇
政府ニ對シ若シ極東ニ於テ事端發生ノ場合アリトスルモ波
蘭政府ハ斯ル機會ヲ利用シ蘇政府ニ事ヲ醸ス如キ事無キヲ
約セル次第ニシテ右ハ昨秋政府黨領袖「メジエンスキー」、
外務省東方局長「シエツエル」及波蘭空軍ノ相次ク莫斯科
訪問ニ依リ既ニ相當纏マリタル了解(波蘭ヨリノ一部軍需
品供給ヲ含ム)成立シ爾來一貫セル現政府方針ノ結果トシ
テ「ベ」ノ訪問トナリタル次第ニシテ當國政府ノ政策ハ日
下ノ處親蘇化シ結局蘇聯邦ハ少ク共當分ノ間歐洲西方國境

国タル佛蘭西ハ之ニ對シ満足ノ意ヲ表スルモノナリトスル
モノアルモ他方ニハ波蘭小協商国ト佛国トノ離間ヲ為サム
トスル獨逸ノ政策ノ現ハレト見又ハ軍縮・四国協定等ニ於
ケル佛国外交政策ガ弱腰ニ終始スル為波蘭自身ニテ事ヲ処
セムトシタルモノナリト為シ斯クテ独乙ハ壞地利ニ對シ全
力ヲ以テ干涉ヲ行フコトヲ得ヘシト論シ居ルモノモアリ所
論區区ニ出テ居レリ左ニ主ナル論說ノ要旨ヲ報告ス委曲ニ
付テハ別添新聞切抜^(省略)キニ依リ御了悉相成度シ

二月二十八日附「タム」ハ「大戦後佛国外交政府ノ最モ
努力シタル所ハ獨波ノ妥協ト「バルカン」半島ニ於ケル
平和ノ脅威ノ除去ニ存シタルモ獨逸国粹党ノ為屢々獨波
妥協政策ハ失敗ニ歸シ居リタル処今日「ヒットラー」宰
相ノ下ニ兩國不侵略條約ヲ締結シタルハ歐洲平和ノ為慶
賀ニ堪エス而モ右協定ハ從來兩國ガ他国ト結ビタル條約
ト抵觸スルモノニ非ラズト宣言シ又兩國ハ互ニ其ノ内政
問題即チ波蘭ニ於ケル獨逸少數民族、獨逸ニ於ケル波蘭
少數民族問題ニ関シ干涉スルコトナキヲ鮮明セルハ歐洲
大陸ノ最大紛争地域ニ平和ヲ確立シタルモノニシテ右協
約ノ成立ニ関スル獨逸ノ底意ハ何レニアアルニセヨ歐洲政

局ノ上ニ齎ス影響ハ大ナリ」ト論シ「ウーブル」モ亦右協約ノ成立ニ依リ独逸ハ右ニ依リ聯盟ト離レテ獨波間ノ直接交渉ヲ為シ得ル途ヲ招キタルハ獨逸ノ成功ナリトナシ波蘭ハ又既往波蘭ヨリノ斯ル提案ヲ常ニ拒絶シ居リタル獨逸ガ今般本協約ノ成立ニ努力シタルハ波蘭ノ国力ノ然ラシムル所ニシテ從來「ロカール」條約ニ依リ得ラレザリシ獨波国境維持ノ保證ヲ本協約ニ依リテ補償セラレタリト満足ノ意ヲ表シ居リ佛外相「ポール・ボンクール」モ亦其ノ成立ニ基ク佛國ノ安全感ノ増加ヲ欣ヒ結局獨波兩國ハ勿論佛國当局モ亦同様満足シ居レリト論ズ

二、反之、一月二十九日「ジュルナル・デ・デバ」ハ「本協定ハ益々独逸ノ個個的交渉及汎獨逸主義ノ進展ニ反対セル團體ヲ可及的ニ瓦解セシメントスル意図ヲ助長スルモノナリ而モ此ノ傾向ハ佛國政府自身ニ依リ勢ツケラレ(例之四国協定ノ成立ノ如シ)居レリ斯ル政策ハ獨逸カ各國ノ確固タル行動ニ依リテノミ救助シ得ラルベキ際殊ニ不幸ナリ」トナシ「エコー・ド・パリ」紙「ペルチイナックス」ハ「本協約ハ何等領土問題ニ言及スル所ナキハ獨逸ガ「ダンチヒ」「オート・シレジイ」ノ領土回

国首相および外相等より聴取について

ウィーン 3月5日後発
本省 3月6日前着

第一三號

本使今回「ブダベスト」ニ出張ノ際匈國首相外相等ヲ訪問中歐問題ニ關スル意見ヲ質シタル處同國側ノ意向大要左ノ如シ

(一)匈ハ伊トハ勿論獨逸英ト極メテ親善佛トモ現在ハ惡カラス其他ノ歐洲諸國トハ小協商國ヲ除キ友好的ナリ

(二)匈國外交ノ最大眼目ハ平和條約ノ改訂ニアリ近キ將來ニ其實現ハ至難ナリトスルモ苟モ改訂ノ趣旨ニ副ハサル國際約束ニハ應スル能ハス「チエツコ」ノ通商提案ヲ拒絶シタル理由モ茲ニ存ス

(三)最近匈獨伊ノ諸會商ハ全ク三國ノ經濟的聯絡ヲ益々緊密ナラシムル趣意ニ出テ何等政治的企圖ヲ有セス又特定國ニ對スル「ブロック」ヲ作ラントスルモノニアラス匈トシテハ出來得レハ獨モ參加セシメ其他ノ「ダニユウブ」諸國ノ加入モ歡迎ス

四壞ニ於ケル獨伊勢力ノ對立ニ付テハ匈ハ何レニモ與セス

收ノ意思ヲ拋棄シタルモノニ非ラザル事ヲ示シ佛國ヲ軍縮ト別個ノ不侵略等ニ關スル協定ニ押シツケントスルモノナリ、波蘭モ「ロカール」條約、四国協定、客年十月十四日ノ軍縮案等ニ於ケル佛國ノ政策ニ鑑ミ吾人ノ頼ルコト少キ印象ヲ有スルニ至レリ然レドモ独波ノ紛争ハ現ニ存在シ居レリ」トテ佛波小協商ノ終末ハ汎獨逸主義ニ道ヲ拓クモノナリトナセリ

「ジュルナル」ハ「獨波協定ハ互ニ戰爭ニ依ラザルコトヲ宣言シ居ルモ聯盟規約、佛波同盟條約ハ如何ニ成リ行ベキガ本協定ハ聯盟組織以上ニ歐洲ノ安全制度ヲ樹立セムトスル第一ノ連鎖ナルガ之ガ獨逸ノ軍縮ニ對スル要求ニ付テノ種々ナル反対ヲ排除セムトスル意図ノ下ニ為サレタルモノニ非ズトスレバ可ナリ然レトモ独逸ヲ其ノ義務ニ拘束スル勢力ノ均衡破レタル時ハ本協約ハ紙屑ニ過サルベシト」ト述べ居レリ

74 昭和9年3月5日

在オーストリア松永公使より
広田外務大臣宛(電報)

中欧問題に対するハンガリーの意向につき同

但シ獨逸ノ近接ハ寧ロ自然的ナリト見ル

(五)匈ハ壞ニ對シテハ經濟的提携以上ノ聯合ヲ希望セス又「ハプスブルグ」家ノ復辟ヲ好マス壞伊ニ於ケル復辟運動モ未タ有力ナリト認メス

前記諸點ノ内(三)ノ三國會商ハ専ラ經濟的提携ヲ目的トスルコト事實ナリトスルモ其ノ結果ニ於テ政治的効果ヲ伴フヘキコト必然ニシテ小協商國乃至佛ノ態度如何ニヨリ今後三國提携ノ内容及形態ニ自然變化ヲ來スヘシト思考セラレ
英、佛、獨、伊、「チエ」、羅馬尼へ暗送セリ

75 昭和9年3月13日

在オーストリア松永公使より
広田外務大臣宛

伊國・オーストリア・ハンガリー三國協約の

締結について

本機密第四九号

(5月9日接受)

昭和九年三月十三日

在壞

特命全權公使 松永 直吉(印)

外務大臣 廣田 弘毅殿

最近埃國政情(伊埃洪三國協定關係)ニ関スル件
本件ニ関シ今般別紙ノ通報申進スルニ付御查收相成度

(別紙)

最近埃國政情(伊埃洪三國協定關係)

「ドルルス」政府カ其ノ經濟的發展ノ道ヲ開カントシテ「ストレーザ」會議ノ決議シタル「ドナウ」諸邦ノ經濟的復興案ノ實行ニ努メ居ルコトハ客年九月二十七日聯盟總會ニ於テ「ドルルス」首相自ラ言明シタル所ニシテ同月末日伊國「ムソリーニ」首相ハ所謂「ドナウ、メモランダム」ヲ「ストレーザ」會議ノ關係諸國ニ交付シテ「ストレーザ」會議決議ヲ具体化スルト共ニ其ノ實行ヲ強調シタルカ伊國側トシテハ右「ストレーザ」決議ニ依ル關係諸國ノ提携實現ノ前提條件トシテ先ツ伊埃洪三國間ニ於ケル提携ヲ策シ客年十二月下旬ノ柏林訪問、本年一月中旬ノ「ウィン」訪問及二月下旬ノ「ブタペスト」訪問ヲ連ヌル伊國外務次官「シュビヒ」ノ獨埃洪三國訪問竝ニ二月上旬「ドルルス」首相ノ「ブタペスト」訪問ニヨリ伊埃洪三國ノ間ニ右提携ニ関スル諒解成リタルモノノ如ク來ルヘキ三月十四日羅馬

ニ注目セラレ

ニ他方來ルヘキ伊埃洪三國協定カ「ムソリーニ」首相ノ言明通り單ニ經濟的内容ノミヲ有スルモノトスルモ小協商諸國間即チ「チェコスロヴァキア」ト「ユーゴスラヴィア」及「ルーマニア」間ニ於ケル經濟關係ヲ中斷セラルル形トナリ殊ニ獨逸側ノ右協定ニ對スル態度如何ニヨリテハ「チエコスロヴァキア」側ハ著シク其ノ經濟的發展ヲ阻害セララル虞アリ又若シ右協定ニシテ單ニ經濟的内容ニ止ラスシテ政治的内容ニ及フモノトセハ平和條約^的の改正派ニ屬スル「ハンガリア」及伊太利ノ提携ハ必然ノ結果トシテ國境改訂ノ機運ヲ促進シ小協商三國ヲ脅威スヘキ關係アリ從ツテ小協商諸國トシテハ伊埃洪三國ノ提携ハ政治的ニモ經濟的ニモ重大ナル利害關係ヲ有スルモノナルカ一方佛國トシテハ伊埃洪三國ノ提携カ經濟的内容ニ止ル限リ直接右提携ニ依リ利害ヲ感スルコト極メテ少ク又若シ右提携カ政治的内容ニ巨ル場合ニ於テモ埃國內ニ於ケル獨逸ノ進出カ小協商諸國在住獨逸民族ノ結合運動ヲ惹起シ獨逸ノ佛國自身ニ對スル壓力ヲ増スニ拘ラス埃國內ニ於ケル伊國ノ進出カ前記ノ通り國境改訂ノ機運ヲ促進シ小協商三國ノ不安ヲ惹起ス

ニ於ケル右三國首相ノ會商ニ依リ漸ク右三國間ニ協定ノ締結ヲ見ントスルニ至リタリ

ニ而シテ右協定ノ内容ニ関シテハ伊國首相「ムソリーニ」カ其ノ經濟的協定ナルコトヲ言明シ又埃國及洪國側當局カ其ノ關稅同盟ニアラサルコトヲ聲明シタルノミニシテ固ヨリ其ノ具體的内容ハ不明ナルモ三國側ニ於テ洪國政府カ獨逸政府トノ間ニ於ケル經濟的竝ニ政治的^的關係ノ阻隔スルコトヲ喜ハサルハ洪國首相隨時ノ親獨的聲明ニ徴シ明ナルノミナラス埃國側トシテモ今回ノ三國協定ニ依リ獨逸ヲ經濟的ニ排除セントスル意向ナキコトハ「ドルルス」首相及ヒ埃國「ハイムウエア」一派カ埃國獨立ヲ損セサル以上獨逸トノ提携ヲ歡迎スヘキ旨隨時聲明シ居ルニ鑑ミ推察ニ難カラザルト共ニ更ニ伊國側トシテモ埃國ヘノ獨逸ノ政治的進出ヲ阻止シタル以上寧ロ小協商側ニ對シ對抗スルコトアリトスルモ今回ノ三國協定ニヨリ獨逸ヲ全然排除スル意向ナキコトハ獨逸ニ對スル伊國從來ノ態度ヨリ容易ニ思考シ得ヘキ所ニシテ本月初旬伊國首相モ右三國協定締結後獨逸ノ右協定參加ヲ歡迎スヘキ旨ヲ公言シ居リ旁々今後獨逸側カ右三國協定殊ニ埃國側ニ對シ如何ナル態度ニ出ツルヤハ特

ル点ハ暫ク措キ右協定ハ伊國ノ所謂「ユーゴスラヴィア」包圍政策ノ實現ヲ容易ナラシメ延テ「バルカン」方面ニ於ケル佛國ノ進出ヲ困難ナラシムルニ過キササルヲ以テ佛國側トシテハ若シ獨伊兩國中ノ何レカノ埃國內進出ヲ認メサルヘカラサルモノトセハ寧ロ伊國ノ進出ニ好感ヲ持ツヘキコトハ容易ニ推定シ得ル所ナリ旁々佛國側トシテハ埃國竝ニ「ドナウ」流域問題ニ関シ伊國トノ間ニ共同政策ヲ樹立セントシテ上院外交委員會委員長「ペランジュ」ヲ首班トシテ議會内ニ本問題ニ関スル一委員會ヲ設置シ前駐伊公使「アンリデジュベネル」(Henri de Jouve)ヲ参加セシメタル旨客月二十三日巴里發報道トシテ當國新聞ニ傳ヘラレタルカ一方本月初旬駐伊佛國大使「デ、シャンプルン」(de Chamberun)ト伊國首相ノ協議ニヨリ本問題ニ関シ佛伊兩國間ニ意見ノ一致ヲ見タルモノノ如ク本月六日同佛國大使本國ヘ帰還ノ上右經過ヲ佛國外相「バルドー」ニ報告シタル旨傳ヘラレタル頃ヨリ佛國新聞ハ盛ニ佛伊接近ヲ傳ヘ殊ニ上院外交委員長「ペランジュ」ニ近キAgence Economique et Financier^(Financier)ハ佛伊兩國關係ハ歴史的轉換期ニ達シ歐洲ニ於ケル佛伊兩國共同政策ノ機運醸成セラルルニ

第二五七號

至リタル旨ヲ報シ他方「ムソリーニ」首相ニ於テモ「ドナウ」流域ノ經濟組織改造問題ニ付キ獨逸ノ外「チエコスロヴァキア」ノ協力ヲ求ムル意向アリ從テ來ルヘキ伊澳洪三國協定ニ對シ將來同國ノ参加スルコトヲ妨ケルコトナカルヘキ旨ヲ言明スルニ至リ右ニ関聯シ本月六日「チエコスロヴァキア」外相「ベネシュ」ハ「チエコスロヴァキア」トシテ「ドナウ」問題ニ関シ「ムソリーニ」ノ指導ニ服スル用意アル旨ヲ聲明シ現ニ同國當局ハ澳國當局トノ間ニ經濟問題ニ関スル協議ヲ進メ居レル趣ナリ然ルニ「ユーゴースロヴィア」トシテハ最近佛國ノ指導ノ下ニ締結セラレタル「バルカン」協定ニ依ル支持ハ之ヲ有スルモ來ルヘキ伊澳洪三國協定ノ締結ニ依リ「チエコスロヴァキア」トノ關係ヲ中断セラレ伊國側ノ「ユーゴースロヴィア」包圍策ニ脅威セラレルコト上^{逼る}通リナルヲ以テ「ユーゴースラヴィア」輿論ハ右危険ニ對シ獨逸トノ提携ノ必要ヲ力説シ居レリ

斯クテ佛國カ「ユーゴースラヴィア」ヲ「バルカン」協定ニ参加セシムル一方伊國カ澳洪兩國ヲ連衡シテ小協商關係ヲ中断スルヲ許容スルニ至リタルニ関聯シ小協商ニ對スル力及獨逸ノ進出ニ對抗シ得サルニ鑑ミ從來ノ對中歐政策ニ多少ノ變更ヲ加ヘ洪牙利ヲシテ其ノ平和條約改訂政策ヲ緩和セシメテ小協商側ト接近ノ素地ヲ作ルト同時ニ佛國トノ協調態度ヲ示シテ獨逸ヲ牽制セントスルモノナルヤニ觀測セラルルモ澳太利ハ獨逸トノ進出ヲ防ク意味ニ於テ知惠古トノ協力ニ重キヲ置キ洪牙利ハ獨逸トノ特殊關係維持ニ努ムト傳ヘラルル他方小協商ノ内知惠古ハ獨逸勢力ノ澳太利進出ヲ嫌フニ反シ塞國及羅馬尼ハ伊國勢力ノ中歐ヘノ進展ヲ好マサル由ナレハ「ダニユーブ」地域ノ政治的、經濟的安定ハ容易ナラスト思考セラレ

在歐各大使、知惠古、澳、羅馬尼ヘ暗送セリ

77 昭和9年5月2日 在仏國佐藤大使より
 広田外務大臣宛(電報)

バルトウー外相のポーランドおよびチェッコ・スロヴァキア訪問に関する情報について

パリ 5月2日後發
 本省 5月3日後着

佛國從來ノ政策ニ一大轉換ヲ見タルニアラスヤト觀測スル向アリ現ニ獨紙「フォシシエ、ツァイツング」紙ノ如キハ右見解ヲ^速居レリ尚佛國外交政策ニ於ケル右轉換ノ動機ニ関シテハ或ハ伊國側ニ於テ海軍軍備ニ関シ佛國ニ對シ多大ノ讓歩ヲ為シタリト傳ヘ或ハ佛國側ニ於テ國內政局ノ動搖ニ^因中歐並ニ「ドナウ」流域ニ策動スルノ余裕ヲ欠キ居ルモノト觀測シ居ル向アリ

76 昭和9年3月22日 在伊國松島大使より
 広田外務大臣宛(電報)

オーストリア問題を中心とした中歐情勢に対する關係各國の動向について

ローマ 3月22日後發
 本省 3月23日前着

第二四號
 往電第二三號ニ關シ

伊國ノ企圖スル所ハ經濟的援助ニ依リ澳洪兩國ノ獨立保持及中歐ヘノ勢力伸長ニアル處三國ノ協力ノミニテハ澳洪ノ經濟的復興ヲ期シ難キハ勿論佛國ヲ背景トスル小協商ノ勢

今回「バルトウ」外相ノ波蘭、知惠古訪問ニ隨行シタル謀報者ノ右訪問ニ關シ内報スル所左ノ通

「同外相「ワルソー」到着ノ際ハ「ベツク」外相カ曩ニ巴里訪問ノ際「ボンクール」外相自身停車場ニ迎ヘサリシヲ理由トシテ單ニ儀式局長ヲシテ出迎ヘシムル等稍冷淡ノ傾アリシカ「バ」外相「ワルソー」ヲ去ルニ際シテハ「ベツク」外相自ラ態々「クラコビー」迄隨行スル等相當ノ熱意ヲ示シ「バ」外相トシテハ結局佛波同盟ノ再確認其ノ他一應豫定通りノ結果ヲ得タリト云フヘキモ此ノ事態カ果シテ何時迄繼續スヘキヤハ將來ノ發展ニ待ツノ外無カルヘシ「ピルズスキー」元帥及「ベツク」外相トノ會談ノ内容ニ關シテハ四國協定等ニ關聯シ佛國ハ波蘭カ三十三萬ノ人口ヲ有スル大國タルノ地位ヲ充分ニ考慮ニ容レ吳レサルコトニ付波蘭側ヨリ苦情ヲ述ヘ之ニ對シ「バ」外相ハ同協定ハ既ニ其ノ存在ヲ失ヒタルニ等シキ旨ヲ答ヘ獨波協定ニ付テハ波蘭側ヨリ同協定ニハ何等秘密取極無キコトヲ確言シ「ウクライナ」分割ニ關シ兩國間ニ秘密取極アリト噂サレタリ)聯盟ニ關シテハ「ピ」ヨリ聯盟ハ餘リニ取止メ無シトテ熱意無キ口吻ヲ示シ之ニ對シ「バ」外相ハ軍縮其ノ他

ノ爲ニ聯盟ノ存在カ必要ナル旨ヲ述ヘタリ蘇聯邦ノ聯盟加入ニ關シテハ右加入カ實現スルモ波蘭トシテハ聯盟ヲ脱退スルカ如キコトハ無キモ蘇聯邦ニ對シ常任理事席ヲ與フル場合波蘭モ之ヲ要求スヘキ旨ヲ明ニシタリ(此ノ點ニ關シテハ「プラーグ」ニ於テ「ベネシユ」外相ヨリ常任理事ノ數ヲ増シテハ如何ト「バ」外相ニ述ヘタル由ナリ)知恵古、波蘭間ノ紛争ニ關シテハ波蘭側ハ仲裁々判ニ懸クルコトハ好マサルモ兩國間ノ交渉ニテ解決シ度意嚮ノ模様ニテ「バ」外相トシテハ積極的ノ斡旋ハ爲ササリキ軍縮ニ關シテハ「ピ」ヨリ佛國政府カ四月十七日回答ノ態度ヲ執リタルハ贊成ナルモ右ノ強固ナル態度カ徒ニ空言ニ終ラス繼續スルコト肝要ナリト述ヘタリ

尙⁽²⁾「バ」ヨリ佛波同盟アルモ暫ク前ヨリ波蘭ハ佛國ノ軍事「ミツシヨン」ヲ有セサルニ至リシ事態ニ言及シ此ノ際兩國軍部ノ間ヲ密ニシ將來有事ノ際ニ備フル爲右「ミツシヨン」ヲ復活スル必要アルヘシトテ結局 Peteing de Vaulgrenant 中將ヲ其ノ中「ワルソー」ニ送ルコトナリタリ「ピ」ハ「ウエーガン」カ露軍ノ侵入ニ對シ「ワルソウ」ヲ救ヒタル關係上自尊心ノ上ヨリ之ヲ嫌ヒ之ニ反シ

ラサルカ萬一右實現スルモ夫レハ羅馬尼「ユーゴー」訪問後別ニ出直スコトトナリ結局六月末頃トナルヘシ在歐各大使、波蘭、チエ、壽府ニ暗送セリ

78 昭和9年5月7日 在仏国佐藤大使より 広田外務大臣宛(電報)

メーメル条約署名國專門家会合への我が方專門家派遣方につき仏國側より要請について

付記 二月二十八日付在独国永井大使より広田外務

大臣宛公信普通第五二号

リトアニアによるメーメル自治權毀損に対し 独國政府の抗議について

パリ 5月7日後発 本省 5月8日前着

第二六六號

四月三十日佛國外務省國際聯盟事務局「デュロン」參事官ノ求メニ依リ館員往訪シタル處同參事官ハ五月中旬聯盟理事會壽府ニ開催ノ際「メーメル」條約署名國タル日英佛伊四國專門家ノ會合ヲ同地ニ開キ本年二月八日「リスアニア」

「ペタン」元帥ヲ好キ居ル由ニテ同中將ハ「ペタン」元帥トハ關係深キ人物ノ由(通商問題ニ關シテ近ク專門家ヲ「ワルソウ」ニ送ルコトトナリタリ右ノ外佛國企業家カ從來波蘭ノ事業ニ四千億法ノ投資ヲ爲シ居ル處最近之ニ對シ波蘭カ種々ノ面倒ヲ惹起シ居ル問題ニ付テハ「バ」ハ餘リ深入リセサリキ

「プラーグ」會談ニ付テハ佛「チ」兩國間ニハ大シテ問題モ無ク特ニ内報スヘキ點無シ唯「ベネシユ」外相ハ佛國ノ四月十七日附軍縮回答ニ贊同シタルモ軍縮條約ノ成立ヲ希望スル旨ヲ述ヘタリ
三尙「バ」ハ六月十日頃巴里出發「ブカレスト」及「プラーグ」ヲ往訪スルコトニ決定シタルカ之ニ關聯シテ伊國新聞中「バ」ノ羅馬訪問ヲ傳ヘルモノアル處右ハ先般「シユビツチ」外務次官カ英國訪問ノ途次當地ニテ「ズーメルグ」首相ニ會ヒタル際若シ同外相カ羅馬ヲ訪問セラルレハ「ムツソリーニ」首相モ喜フヘシト述ヘタルカ話ノ始マリニテ外務省内一般ハ佛伊間ニ何等協定モ出來サルニ同外相カ羅馬ニ行クハ早計ナリトノ意見ニテ之ニ對シ政府一般ハ羅馬訪問ニ寧ロ贊成ニテ同外相自身ハ未タ其ノ意嚮ヲ明ニシ居

(欄外記入)

ノ公布シタル國家及國民ノ安全ニ關スル法律ト「メーメル」條約トノ關係ニ付研究スルコトト致度キ趣(尙客年十月二十三日附機密聯本公第四二〇號貴大臣宛伊藤局長代理報告ノ問題モ併セ研究スル由)ヲ以テ我方專門家ノ參加方ヲ求ムル處アリタル趣ナリ就テハ右會合ニハ横山ヲ出席セシムルコト然ル可シト認メラルル處何分ノ儀至急御回電ヲ請フ 壽府、英、獨、伊へ轉報セリ

(欄外記入)

出席セサルコトヲ得ルヤ得トセバ考慮ヲ要ス

(付記)

普通第五二號

(3月26日接受)

昭和九年二月廿八日

在獨

特命全權大使 永井 松三(印)

外務大臣 廣田 弘毅殿

「リスアニア」ノ「メーメル」自治權毀損ニ

對スル獨逸政府抗議ニ關スル件

本年二月八日「リスアニア」政府ハ「國民及國家ノ保護ニ關スル法律」ヲ發布セル處右法律ハ「國家及國民ノ利益ニ一致セサル一切ノ行爲」ヲ處罰スルト共ニ本法律ニ對スル違反事件ヲ「コヴノ」ニ於ケル控訴裁判所ノ管轄タラシメタルノミナラス何人モ政府ノ措置ニ關シ「當該官憲ノ許可ナクシテ」外國ニ異議ヲ提出スルコトヲ得サルモノトシ以テ事實上「メーメル」住民ノ「メーメル」協約締結國又ハ國際聯盟理事國ニ對スル請願權ヲ奪ヘリ

右ニ對シテハ獨逸政府ハ之ヲ以テ「メーメル」ノ自治權ヲ毀損スルモノナリトシ二月二十三日在「コヴノ」獨逸公使ヲシテ「リスアニア」政府ニ抗議セシメタルカFrankfurter Zeitungノ言フ所ニ依レハ英佛伊三國公使モ本件法律カ「メーメル」ノ自治權ニ反スルコトニ關シ既ニ同政府ニ申入ヲ爲シ居ルノミナラス獨逸政府ハ「リスアニア」政府ニ對スル抗議ト共ニ英佛伊三國政府ニモ本問題ニ關シ申入ヲ爲ス所アリタル趣ナルカ當國新聞ハ英佛伊及日四箇國ノ保障セル「メーメル」ノ自治ニ付テハ一九三二年八月十一日常設國際司法裁判所ニ依リ其「リスアニア」國主權トノ關係カ確定セラレタルニ拘ハララス同政府ハ右自治ノ破壊ニ組

織的ニ努力シ居リ殊ニ最近ニ至リテハ一九三三年六月十日ノ外國人ニ關スル二個ノ法律及同年七月十一日ノ裁判所組織ニ關スル法律ニ依テ「メーメル」ノ獨逸人住民ヲ壓迫シ「メーメル」規約ニ違反セルコトヲ擧ケ今回ノ新法律ハ「リスアニア」政府カ「メーメル」ノ自治ヲ破壊セントスル各種ノ措置ノ一連鎖ニ外ナラストテ同政府ヲ非難シツツアル處二月二十四日外務省筋意見ノ半官發表機關タル外交政治「コレスボンデンツ」ハ本件新法律ハ「メーメル」ニ效力ヲ有スル新刑罰法規及新刑事訴訟手續ヲ定メタル點ニ於テ純然タル形式論トシテモ明カニ「メーメル」規約ニ違反スルト共ニ其實質トシテハ全ク「メーメル」ニ對スル特別法ナリ本件法律ハ其形態ニ於テハ「リスアニア」全般ニ對シ適用アリト雖モ「國家及國民ノ利益ニ一致セサル一切ノ行爲」ヲ罰スヘキモノト爲シ居レリ然ルニ斯ノ如キ抽象的規定ヲ以テ刑罰ヲ課セントスルハ文明社會ニ類例ナキト共ニ「リスアニア」ハ「メーメル」ノ自治ソノモノヲ國家ノ利益ニ合致セサルモノト看做シ居ルハ既ニ周知ノ事實ニシテ「リスアニア」政府カ本規定ニ依テ何ヲ意圖シ居ルヤハ裁判ノ實際ヲ俟ツ迄モナク明瞭ナリト爲シ「リスアニア」

カ刑罰ヲ以テ「メーメル」ノ住民ヲ威嚇シ以テ國際法上ノ不法ヲ國內法上ノ事實タラシメント試ムルハ十年前巴里ニ於テ「メーメル」ノ自治ヲ保障セル國ノ寛容乃至無關心ヲ弄フモノニシテ驚クヘキ所ナリト述ヘ獨逸政府ハ「リスアニア」政府ニ對スル抗議ニ當リ若シ「リスアニア」政府カ本件法律ニ依ル政策ヲ繼續スルニ於テハ獨逸及「リスアニア」間ノ關係ニ當然生セサルヘカラサル結果ニ付「リスアニア」政府ノ注意ヲ喚起シタルハ固ヨリ其所ナリト爲シタルカ他方Frankfurter Zeitungハ同様ノ趣旨ヲ論シタル後「リスアニア」ハ從來獨逸及波蘭間ニ存セル紛争ノ雰圍氣ニ乘シ兩國ヲ操リ居リタルモ右ハ獨逸間ノ平和的了解成立ニ依リ不可能ナラシメラレタルコトヲ指摘シ獨逸平和的の了解ノ成立ハ「リスアニア」ヲ狼狽セシメ今ヤ同國ハ國內波蘭少數民族ニ對シテモ益々壓迫的措置ヲ執ルニ至リタル處波蘭新聞カ「リスアニア」ヲ以テ獨逸兩國ニ對シ二面ノ戰線ヲ張り完全ナル孤立ニ陥レルモノナリト評セルハ當レリ「リスアニア」今日ノ暴力政策ニ付テハ其心理ニ「リスアニア」ハ將來獨逸協定ノ對象物タラシメラルルコトアラントノ恐怖カ働キ居ルハ疑ナキ處兩國ノ協約カスル事ヲ意圖

シ居ラサルハ言フ迄モナシ獨逸ハ「リスアニア」ノ如キ小國ノ存在ヲ別ニ問題トセサルノミナラス「ヒットラー」宰相ノ屢々宣言セル通り總テノ他民族ヲ尊重スルモノニシテ獨逸ノ政策ニ何等カ架空的計畫ヲ想像スルカ如キハ當ラストノ趣旨ヲ論シタリ

右報告ス

本信寫送附先 在波蘭公使及在「ラトビヤ」代理公使

79 昭和9年6月20日 在独国永井大使より
 広田外務大臣宛(電報)

ヒットラー、ムッソリーニ会談に関する独国紙
 の報道振りについて

ベルリン 6月20日午後
 本 省 6月21日午前

第一二四號
 「ヴェニス」ニ於ケル「ヒットラー」及「ムッソリーニ」會見ニ關シテハ當國ニ於テハ其ノ個人的接觸カ趣旨ニシテ何等カノ具體的合意ノ達成カ目的ニ非サル處軍縮會議ハ事實上失敗ヲ示シ各國ニ軍備競争カ開始セラレ又所謂地方的

協約ノ形ニ依テ舊時ノ同盟組織ヲ實現セントスル試カ行ハ
レツアル時ニ當リ兩者ノ會合ハ大ナル意義ヲ有ストシ十
五日「ヴェニス」ニ於ケル共同「コムミュニケ」ノ示スカ
如ク兩者ノ個人的接觸カ將來ニ巨テ設定セラレタルコトニ
今回ノ會見最大ノ成果ヲ認メ居リ兩者談話ノ内容ニ關シテ
ハ當國新聞ハ右「コムミュニケ」及伊國側新聞部長「チア
ノ」ノ新聞ニ與ヘタル「インタヴュー」以外ノ點ニ觸レ
居ラサル處當國新聞ノ擧ケ居ル主要點左ノ如シ

一「佛蘇ノ「プロック」形成計畫ニ對スル問題カ話題ニ上リ
タルハ疑ナキ處「プロック」ノ形成ハ反對「プロック」ヲ
現出セシメサルヲ得ス二國間ノ合意ニ第三國ニ對スル鋒先
ヲ含マシムルカ如キハ素ヨリ獨伊兩國ノ必要トスル方法ニ
非ス兩者ハ一般的協約ニハ贊成ナルモ地方的協約ヲ非トス
ルニ於テ意見一致セリ

二獨逸ノ平等權實現カ軍縮問題今後ノ進展及獨逸ノ聯盟復
歸ノ前提要件ナルコト確認セラレタルモ右ニ關シテハ獨伊
英ノ間ニハ既ニ意見一致シ居リ伊國ハ右問題ニ關シ新ニ措
置ヲ取ルコトナカルヘク又獨逸モ之ヲ要求セサルモノト思
ハル

について

パリ 6月30日發
本省 7月31日着

郵第三五五號

壽府軍縮會議ニ現ハレタル歐洲諸國ノ態度ヲ最近歐洲政局
ノ推移ト照合シ歐洲國際關係ヲ通觀スルニ同會議ノ當初ニ
比シ寧ろ惡化セル觀アリ注意ヲ要スルモノアリト思考スル
ニ付佛國ヲ中心トスル當面ノ諸問題ニ關スル本使ノ觀察何
等御參考迄ニ左ノ通り申進ス

一軍縮問題ニ關シ客年十月獨逸ノ軍縮會議及聯盟脫退後佛
國ハ獨逸ト外交交渉ヲ繼續シ來リタルカ其ノ結果面白カラ
ス「ゾーメルグ」内閣トシテハ

(欄外記入)

一獨逸再軍備ノ平和條約違反ヲ楯ニ獨逸ヲ膺懲シ場合ニ依
リテハ所謂「ゲール、プレバンチープ」ニ訴フヘキカ

二獨逸ノ再軍備ヲ飽迄容認セス行動ノ自由ヲ留保シ必要ナ
ル軍備充實及外交工作ヲ爲スカ

三獨逸ノ再軍備ノ程度迄容認シ監督及保障制度ヲ規定ス
ル軍縮條約締結ノ爲ニ努力スルカ

四一ヲ選ハサルヘカラサル立場ニ置カレタリ而シテ一時ハ

三 欧州政況關係

三、埃國ニ關シテハ其ノ獨立ノ基礎ノ上ニ獨逸ノ正常關係ノ
回復ヲ望マシトスルコト兩者一致ノ見解ナル處右ハ獨逸從
來ノ態度ニ外ナラス獨逸ハ埃國ノ獨立ヲ尊重スルト共ニ其
ノ國內事態ノ正常化ヲ希望スル處右ノ正常化ハ埃國ノミカ正
當ニ政治上表現セラレルコトニ依テ始メテ得ラルヘク埃國
ノ「ナチ」化カ其ノ獨立ヲ害セサルハ「ダンチヒ」ノ實例
ニ就テ見ルカ如シ

四「ダニユーブ」國ノ經濟問題解決ノ爲兩國カ協力スヘシ
トノ點ハ埃國ノ國內事態正常化ノ前提ノ下ニ當然ノコトナ
リ
五、尙當國新聞ハ「ムツソリーニ」ノ十五日「ベニス」ニ於
ケル演説及「ヒットラー」ノ十七日國粹社會黨「チユーリ
ンゲン」地方大會ニ於ケル演説ヲ指摘シ兩國ノ努力カ歐洲
ノ平和的建設ニアルコトヲ高調シ居レリ
伊へ郵送セリ

80 昭和9年6月30日

在仏國佐藤大使より
広田外務大臣宛(電報)

仏國を中心とした欧州情勢全般に関する観測

英國カ或程度迄保障問題ニ乗出スヤニ見受ケラレタル結果
「ゾーメルグ」内閣ハ右第一案ニ傾キ懸ケタルモ偶々獨逸
カ新豫算ニ多大ノ軍事費ヲ計上シ公然再軍備ヲ遂行スルノ
舉ニ出テタル爲四月十七日附對英「ノート」ヲ轉機トシテ
斷然第二案ヲ選フニ決シタルカ右態度ハ大体當國輿論乃至
議會多數ノ支持ヲ得ルモノト認メラル右ノ結果自然軍縮協
定ノ成立モ望薄トナリ現ニ英ハ空軍ノ充實ヲ始メ佛亦最近
陸海空軍充實ノ爲三十四億餘ノ支出ヲ決シ伊國亦戰艦二
隻ノ起工ヲ聲明スルニ至リ茲ニ軍備競争ノ端ヲ發シタルヤ
ニ認メラルル次第ナリ最近「バルト」外相ハ西歐諸國及
「バルズ」地方ニ地方的相互援助條約締結ニ盡瘁シ居リ其
ノ成功ノ程度如何ニ依リ自國ノ軍備ノ程度ヲ限定セントス
ルモノノ如クナルモ果シテ條約締結ニ成功スヘキヤ否ヤ將
又假令或程度ノ成功ヲ見タリトスルモ直ニ獨逸ノ再軍備ニ
同意スヘキヤ否ヤ全然未知數ナリト謂ハサルヘカラス
三、佛蘇間ノ關係ハ客年八月「エリオ」ノ訪蘇ヲ機トシテ一
層接近ヲ加ヘ來リシカ蘇側ハ右關係ヲ大戰前ノ關係ニ迄發
展セシメ兩國間軍事協定ヲ結ヒ結局佛ヨリ借款ヲ得ントシ
居ルモノノ如ク佛側ニテ之ヲ支持スルモノニ「エリオ」ヲ

始メ目下歸佛中ノ「アルフアン」大使、操觚界ノ名士「アンドレジード」等アリ而シテ今ヤ「ナチス」治下ノ獨逸牽制ノ意味ニテ露國ト接近スルコトニ付テハ右派方面ニ於テモ反對鮮キモノノ如ク問題ハ佛蘇關係ヲ右軍事同盟ノ程度ニ迄進ムヘキヤ否ヤニアル處此ノ點ニ關シテハ佛國ハ前述軍縮問題ニ關シ強硬ナル態度ヲ採リタルニモ顧ミ所謂獨逸包圍策ノ強化ニ努ムル必要アリ又露國カ所謂平和政策ヲ標榜シ不侵略條約、侵略者定義協定又最近ノ相互援助地方協定案ニ依リ斷然條約非改訂現狀維持論ニ與シ佛及小協商諸國ニ近ツキ九月ニハ聯盟ニ加入セントシツアル狀勢ニ顧ミ佛國內ニ於テモ軍事同盟迄行フヘシトノ意見幾分増加ノ徵アリト認ムルヲ妥當トスヘシ現ニ軍部ハ從來露國軍隊ノ眞價ニ付餘リ信ヲ措カサリシ由ナルカ最近ハ意見分レ波蘭訪問中ノ「ジエネラル、デブネー」ハ露國軍ノ眞價ニ付波蘭側ヲ通シテ再檢討スル任務ヲ有スルモノナリト傳フルモノアリ

三、客年七月ノ羅馬四國協定カ佛國及其ノ同盟國間ノ關係ニ一抹ノ暗影ヲ投シタルハ否ムヘカラサル所ニテ右ノ結果ハ小協商國ノ結束本年一月獨、波不侵略共同條約ニ現ハレタ

旁同會談ニ於テモ具體的協定ニハ達シ得サリシモノノ如ク此ノ間ニアリテ英國ノ態度ハ最モ注目ニ値スヘキ所此ノ點ニ關シ七月八日「バルト」ノ英國訪問ハ重要ナル意義ヲ有スルモノト云フヘク右ハ相互援助條約案ニ對シ英國側ノ少クトモ暗黙ノ贊同ヲ得ルコトヲ目的トスヘシト傳フル向モアリ

在歐各大使、米、壽府へ暗送セリ

(欄外記入)

議論ハ完結セルモノナリヤ?

81 昭和9年7月3日

在仏国宮崎(勝太郎)臨時代理大使より
広田外務大臣宛(電報)

バルトウー外相のルーマニアおよびユーゴス
ラヴィア訪問に関する情報について

パリ 7月3日後発
本省 7月4日前着

第(脱)號

「バルトウー」外相ノ「ベルグラード」訪問(六月十八日發、

リト思考ス特新波蘭ハ「ロカルノ」條約以來佛國カ波蘭ノ發達ヲ無視スルニ不滿ノ由ニテ最近佛、蘇ノ接近モ其ノ喜フ所ニアラス最近ノ相互援助地方協定モ之ヲ拒絶シ獨、蘇ノ間ニ介在シ自主的外交ヲ爲サント試ミ居ルモノノ如ク認メラル過般來「バルトウー」外相ノ波蘭、知惠古訪問又今回ノ羅馬尼「ユーゴー、スラビヤ」訪問ハ右事態ノ改善ニ貢獻セル所アリタルヘキハ想像ニ難カラサルモ波蘭ノ態度ハ依然トシテ熱情ヲ缺クモノノ如シ

四、此ノ間ニ介在シテ從來條約改訂論者トシテ靈犀相通スルモノアリタル獨伊兩國ハ壞太利問題ニテ端ナクモ利害衝突シタルカ其ノ後伊國ハ二月ノ雅典協定ニ依リ巴爾幹ニ於ケル足場ヲ弱メラレ之ニ對シ三月ノ伊埃匈協定ニ依リ之カ對抗策ヲ講シタリト見ルヘキカ前述佛蘇接近ノ結果條約改訂論國ト非改訂論國トノ均衡ニ變化ヲ生シ茲ニ「ナチス」政策行詰リ外交的ニ孤立ノ形トナリタル獨逸ト伊國トノ間ニ再ヒ接近ノ形勢ヲ來シ六月十四、五日ノ「ベニス」會談ヲ見タルモノト認メラル然シナカラ同會談ハ獨逸側ノ希望ニ基キシモノノ如ク又伊國トシテハ目下財政難ニ苦ミ之カ救濟ハ佛國等ニ仰ク必要モアリ餘リ深入シ得サル事態ニアリ

廿八日歸巴)ニ關シ諜報者内報左ノ通

(一)羅馬尼訪問ヲ九月ニ延ハサントノ話モアリシカ最近「カロール」二世カ「テイチュレスコ」ノ外交上ノ聲名ヲ嫉妬セラレ「テイ」ノ地位危クナリタル爲(國王ハ既ニ軍隊ノ事實上ノ首長トナリ居ラレ今ヤ外交ヲモ實際上其ノ掌中ニ收メント欲シ居ラルル由)六月中實行スルコトナリ其ノ結果國王ト「バ」トノ關係モ改善サレタリ「バ」ハ國王ニ對シ佛國內ニハ國王カ寧ろ獨逸ニ好意ヲ有セラるルモノト考ヘ居ルモノ鮮カラサル旨ヲ仄シタル處國王ハ其ノ巴里滯在中他ノ首都ニ移ルコトヲ勸説スルモノアリシカ斷然巴里ニ留マリ居リタル事實ニ見ルモ自分ノ對佛好意ハ明カナルヘシト答ヘラレシ由ナリ「バ」カ羅馬尼議會ニテ「テイ」ノ演說ニ應シテ國境改訂問題ニ付強キコトヲ言ヒシカ右ハ波蘭ノ對佛態度カ曖昧ナルニモ顧ミ羅馬尼ヲ出來得ル丈ケ引着ケントノ腹ニ出テシモノナリ今回羅馬尼ヨリハ別ニ借款ノ希望申出モ無カリシカ佛國ヨリ武器ヲ供給スルコトナリタリ佛國トシテハ出來得ル丈ケ小協商諸國及波蘭ノ武器ヲ佛國ノ物ト同シニシ度希望ナリ

(一)「アレキサンドル」一世トノ會見ニ於テ「バ」ヨリ本年五月ノ獨「ユ」通商協定ハ「ユ」ニ取リ非常ニ有利ノモノニテ「ユ」カ之ニ署名シタルハ尤モナリト述ヘタリ(本協定ニ依リ獨逸ハ「ユ」ノ麥ヲ買フコトトナリ居リ獨逸ハ之ニ依リ小協商國ヲ切崩サント試ミタルモノト見ラル)「ユ」カ未タ蘇聯邦ヲ承認セサルハ現皇室カ舊露國帝室ト關係アリ又白系露人ヲ以テ組織セルニ聯隊ハ現ニ「ユ」國軍隊ニ編入シ居ル處承認ノ曉ハ之カ解散ノ必要ヲ生スヘキ事情等ニ依ルモノニテ國王ハ承認問題ニ付テハ全ク意見ヲ述ヘラレサリシカ結局「ユ」トシテハ九月蘇聯邦カ聯盟ニ加入スルニ於テハ強ヒテ之ニ反對セサルヘシト思ハル

在歐洲各大使、波蘭、知恵古、羅馬尼、壽府へ暗送セリ

82 昭和9年7月10日 在独国永井大使より
広田外務大臣宛(電報)

ノイラート外相よりメーメル問題に関する我が方への注意喚起について

83 昭和9年7月12日 在チェッコ・スロヴァキア堀田(正昭)公使より
広田外務大臣宛

欧州政局全般に関するベネシユ外相の議会演説について

普通第八二號 (8月8日接受)

昭和九年七月十二日 在「チェッコスロヴァキア」國
特命全權公使 堀田 正昭(印)

外務大臣 廣田 弘毅殿

「ベネシユ」外相ノ外交演説ニ關スル件

七月二日「ベネシユ」外相ハ兩院本會議ニ於テ「歐洲均勢鬭爭ノ新段階」ナル題目ノ下ニ、外交報告演説ヲナシタルカ注目スヘキ部分大要左ノ通報申進ス。

一、獨波協定

本協定ニ付テハ獨ノ南下策ニ資スル一手段ナルカ如ク觀察スル者尠カラス、本來歐洲平和ニ貢獻スルモノトシテ歓迎セラルヘキニ拘ラス波國側ノ不可解ナル態度ト相俟チテ其ノ裏面ニ何等カノ策動ヲ含ムカ如キ疑念ヲ抱カシ

ベルリン 7月10日後発
本省 7月11日前着

第一四三號

十日求ニ依リ外相ヲ往訪シタル處外相ハ獨逸政府ハ「メーメル」ニ關シ「メーメル」條約締結四箇國ノ注意ヲ喚起スルコトトナリ東京ニ於テモ獨逸大使ヨリ右ニ關シ「ノート」ヲ日本政府ニ提出セリトテ右「ノート」寫ヲ手交シタル上元來獨逸ハ「メーメル」ニ關シテハ條約及「スタチユート」ノ正シキ適用ヲ求ムル以上ノ意嚮ヲ有セサル處近來「リスニア」ノ態度ハ益々條約及「スタチユート」ニ反スルモノアリ獨逸政府ハ是迄本件ハ地方的ニ解決シ得ヘキモノト信シ別段ノ措置ヲ執ラサリシモ遂ニ此ノ上事態ヲ惡化セシメサル爲措置ノ必要ヲ認メ四箇國ノ注意ヲ喚起スルコトトナリタルヲ以テ日本政府ニ於テモ篤ト研究セラレンコトヲ請フ旨述ヘ尙餘談トシテ「ナチ」政府トナリテ以來「メーメル」ニ於ケル獨逸人「ナチ」ノ態度モ挑發的ノモノアリタルハ之ヲ認メサルヘカラサルモ又一方四箇國モ餘リニ「メーメル」問題ヲ放置シ居リタル嫌アリト内話シタリ

メ今後数月若クハ数年ノ間ニ波國ノ政策カ意外ノ方向ニ轉スルコトナキヤヲ危惧セシムルモノアリ。
二、「バルカン」協商

「ブルガリヤ」ハ未タ参加セサルモ、且下何等カノ形式ニ依ル「ブ」國ト協商國トノ接近圖ラレツツアリ。

本協商ノ根本精神ハ「バルカン」ヲ「バルカン」人ノ手ニ「ト云フニ在ルカ、之レ「バルカン」ヲ列強ノ競争ノ對象物タラシメサルコトヲ意味シ本協商成立ノ結果「バルカン」戰爭惹イテ歐洲戰爭ノ危機除去セラレタリ。

三、蘇國外交政策ノ轉向

最近ニ於ケル蘇國政府ノ平和政策ヘノ轉向ハ獨國粹主義革命ト日支事變ニ促サレタルモノナルカ之レ歐洲ト蘇國間ノ變則的關係ヲ正常ナラシメ歐洲平和維持ニ重大ナル意義ヲ有スルモノナリ蓋シ蘇國ヲ除外シテ眞ノ歐洲ニ於ケル勢力均衡ハ望ミ得ラレサレハナリ此ノ情勢ハ「タルディユ」、「ラヴァル」、「エリオ」等歴代ノ佛國政府ニ依リ準備セラレ、現政府ニ承継セラレタル所ニシテ、其ノ趣旨ハ即チ極東ニ於ケル緊張ハ日々増大シツツアルカ萬一戦亂勃發スルコトアランカ現在歐洲ニ於ケル一群ノ

未解決問題、「ファッシズム」ト「デモクラシー」ノ闘争、各國ノ野謀、條約改訂運動等ハ急激ニ活動ヲ開始スヘク各國政治家ノ平和意思乃至努力ニモ拘ラス紛乱ノ發生スルコトナキヲ保シ難キカ故ニ極東ニ於テ如何ナル事態發生ストモ爲メニ歐洲ニ何等紛糾ヲ及ホスカ如キコトヲ防止セムトスルニ在リ若シ歐洲平和カ確立セラレ蘇國カ西境ニ何等不安ヲ感セサルニ至ルニ於テハ極東ニ於テモ紛争ノ勃発ヲ見ルコトナカルヘシ。

四、東欧協定

前記ノ如キ歐洲ニ於ケル紛乱ヲ防止センカ爲ニ生レタルモノコソ東欧協定ナル觀念ニシテ即チ獨、蘇、波、致及ヒ場合ニ依リテハ「バルチック」諸國ヲ包含スル「ロカール」協定ニモ比スヘキ相互救援ノ協定ヲ締結セントスルモノナリ本協定ハ各國間ニ相対抗スル軍事同盟ヲ形成セムトスルモノニアラスシテ國際聯盟ノ精神ニ遵ヒ各強國ト小國ノ團結トノ間ニ均衡ヲ確立シ歐洲ニ大強國獨蘇ノ變則ナル地位ヲ正則ニ復帰セシメムトスルモノニ外ナラス又々極東及ヒ歐洲自体ニ於ケル紛乱ノ危惧ニ対スル平和ノ保障トシテ佛國、小協商、「バルカン」協商及蘇

レ軍縮問題ノ進捗上好キ影響ヲ與ヘ歐洲平和ノ維持ニ貢獻スル処大ナルヘシ何レニセヨ今年ノ終リ又ハ來春始メニ至ル數ヶ月ノ時期ハ右狀勢ノ發展ニ決定的意義ヲ有スルモノト考フ。

五、他ノ歐洲諸國トノ關係

次ニ致國ト近隣諸國トノ關係ニ付テ略述セハ先ツ小協商トシテハ反「アンシユルス」、反「ハップスブルグ」復辟、反條約改訂ノ三原則ヲ守ルコト從來ト變リナク佛國トノ協力ハ勿論波國トハ過般ノ紛争(「テッシェン事件」)ヲ單ナル地方的事件トシテ解決シ其他ノ問題ニ關スル無益ナル論争ハ之ヲ避ケ友好關係ヲ持續セムトス。

獨國トハ差當リ紛糾ノ原因トナルモノナク今後ハ前頭東欧協定商議ニ盡力スヘシ、奧國トノ通商協議ハ漸次效果ヲ收メツツアリ、洪國首相ハ過日經濟協力問題解決ノ爲條約改訂問題ヲ犠牲ニスルヲ欲セスト聲明シタルカ吾人モ亦同様ニ政治問題ヲ犠牲トシテ經濟問題ヲ解決スルノ意思ナシト主張セントス

伊國トノ間ニモ何等紛議ノ因子ナク却テ「アンシユルス」中欧問題其他ニ關シ共通ノ利害ヲ有スルモノ多キヲ以テ

聯邦ヲ含ム新團結ヲ現出スルニ至ルトスルモ直チニ之ヲ以テ現存ノ國家「ブロック」ニ対スル新「ブロック」ヲ形成セムトスルモノト云フヘキニ非ス寧ロ斯ル「ブロック」ノ發生ヲ妨止セムトスルモノナリ、之ニ対シ佛國ハ英、伊、蘇、小協商トノ關係ヲ顧慮シ参加ヲ辞セサルヘシ、人若シ之ヲ以テ佛國ヲ廻ル同盟ノ結成ナリト考フルナラハ重大ナル誤謬ニシテ假令本協定成立スルコトアラムモ佛國ノ東南諸國トノ協調政策ニハ何等變化ナカルヘシト信ス更ニ獨伊ノ態度ニ就テモ商議ノ方法如何ニ依リテ其ノ間ノ困難ヲ除去スルコト必スシモ難事ニ非ラス蓋シ余ハ最近ノ「ヒットラー」「ムッソリーニ」ノ「ベニス」會見ノ如キキモ「アンシユルス」其他ニ關スル意見ノ交換ニ止マリ兩國カ一ツノ「ブロック」ヲ作ラントスルカ如キ意思ヲ有スルモノトハ思考セサレハナリ、又本協定ニ依ル歐洲ノ平和カ混乱ヲ利用シテ自國ノ利益ヲ收メントスル國ノ希望(條約改訂「ハップスブルグ」復辟等)ト相反スル処ナルハ明カナリ。

要之東欧協定ハ其實現ニ多大ノ困難ヲ有スヘキモ若シ之カ成立スルコトアラムカ現下歐洲ノ危機ハ多ク排除セラ今後充分ノ諒解ヲ遂ケ得ルモノト確信ス
最後ニ現時ノ潮流タル經濟國粹主義(「オートタルキー」)ハ經濟恐慌ヲ克服スルノ力ナク、專制政治ハ徒ラニ社會不安ヲ増大スルノ結果トナレルノミナリ、仍テ吾人ハ飽ク迄外、他國トノ協調ニ努力スルト共ニ内、「デモクラシー」ノ原則ニ忠實ナラントスルモノナリ。云々。

本信寫送付先 在歐各大使、在奧、羅、波各公使
在壽府總領事。

84 昭和9年7月12日 在ハルビン森島(守人)總領事より
広田外務大臣宛

第七回コミンテルン大会開催に関する情報に
ついて

機密第一〇一八號 (7月20日接受)
昭和九年七月十二日 在哈爾濱

外務大臣 廣田 弘毅殿 總領事 森島 守人(印)
件名

共産國際第七次世界大會開催ノ件
本件ニ關スル七月十一日附在滿大使宛拙信公領機密第八二三號寫送付ス

公領機密第八二三號

昭和九年七月十一日

在哈爾濱

總領事 森島 守人

在滿洲國

特命全權大使 菱刈 隆殿

共産國際第七次世界大會開催ノ件

本件ニ關シテハ本月上旬電報報告ノ次第アル處更ニ四月十六日附滿洲省委指令ヲ入手目下翻譯中ナルカ其ノ内容別添要目ノ通りニシテ第三インター第七次世界大會ニ關スル記載アルヲ以テ極力内偵ノ結果諜知シタル情況左ノ如シ
尙吉東局ニ就キ今次當館警察ニ於テ檢舉シタル滿洲省委幹部ノ供述ヲ綜合スルニ全局ハ客年五月頃中央部ノ指令ニ基キ組織セラレ其ノ系統ハ滿洲省委ノ隸下ニ在リ省委ト外縣トヲ結フ中間機關トシテ活動中更ニ客年九月頃省委ハ蘇滿

國境ニ交通處ヲ附設シ以テ滿洲省委ト第三國際浦鹽代表及浦鹽太平洋職工秘書處トノ連絡ヲ完全ナラシメタル處曩ニ

中共中央部ト吉東局ヲ利用シテ蘇聯參觀團及學生ヲ派遣シタル事實アリ今回亦第七次世界大會中國代表ヲ總ヘテ吉東局ヲシテ入蘇工作セシムルニ於テハ全局ハ中共ト第三國際トノ連絡重要機關ト見ルヘキモノニシテ共産黨取締上重視スヘキモノト認メラル

記

一、共産國際第七次正界大會ハ十一月七日頃開催ノ豫定ニシテ中共中央部ニ於テハ夫々代表派遣方準備中ニシテ中國代表ハ蘇維埃區域ヨリ二十一名所謂白色區域ヨリ二十七名計四十八名ニシテ其ノ内工人代表ハ十五名滿洲代表ハ三名ノ由ナルカ一部代表ハ既ニ入蘇セリ
代表ノ入蘇經路ハ總ヘテ吉東局ヲ中間連絡ト爲シ「ボクラニチナヤ」ヲ經テ全局交通處ヨリ入蘇直接莫斯科ニ赴ク筈ナリト云フ
右報告申進ス

本信寫送付先

外務大臣

在奉天、新京、吉林、間島、天津、青島、上海、南京、廣東、福州、齊々哈爾、滿洲里、厦門各總領事領事

哈爾濱憲兵隊長 哈爾濱特務機關長

關東廳、朝鮮各警務局長

(別添)

共産國際執委十三次全會

共産國際執委十三次全會ニ關スル通知

共産國際執委十三次全會ハ一九三三年十二月莫斯科ニ於テ

開カレ左ノ報告ヲ受ク

(一)クシニン同志ノファシズム戰爭ノ危機、各國共産黨ノ任務ニ關スル報告

(二)各國共産黨ノ報告

A、ビク同志ノ獨乙共産黨ノ活動ニ關スル報告

B、バビト同志ノ英國統一戰線ノ策略ニ關スル報告

(三)議事日程第三項ニ關シ全會ハ一九三四年下半年ニ共産國際第七次世界大會ヲ召集スルコトヲ決定ス

全會ハ主席團委員ヲ補選スルト共ニ國際執委ノ財政報告

ヲ承認ス

全會ハ白色恐怖ニ關シ全世界工人ニ告クル宣言ヲ發スルコトヲ決定ス

共産國際執委第十三次全會ノ提綱、決議並本通知ヲ同時

ニ公布ス

共産國際執委政治書記處

記事ノ題目

一、ファシズム、戰爭ノ危機、各國共産黨ノ任務

二、白色恐怖ニ反對スル宣言(共産國際執委十三次全會ノ宣言)

三、共産國際執委十三次全會ノ共産國際第七次世界大會召集

ニ關スル決定

(一)第七次世界大會ハ一九三四年下半年ニ之ヲ開クコトニ

決定ス

(二)共産國際執委主席團ニ委托シテ議事ノ日程、各問題ニ

對スル報告者ノ指定及共産國際各支部ノ第七次世界大

會ヘ参加スヘキ代表人數等ヲ公布セシムルコト

(三)共産國際各支部ハ前第二項ノ公布アリタルトキハ責任

ヲ以テ速ニ黨内ニ於テ共産國際第七次世界大會ヘ出席

スヘキ準備ニ取り掛ルコト
(四) 各國共產黨中央委員會ハ六月一日前迄ニ各自ノ大會ニ提出スヘキ議事項目ヲ共產國際執委主席團ニ送付スルコト
一、共產國際十三次全會ノ共產國際執委財政報告ニ關スル決定

滿洲省委翻印
四月十六日

85 昭和9年7月26日
在ラトヴィア佐久間(信)臨時代理公使より
広田外務大臣宛(電報)

メーメル問題に対し我が方意見を開示する際
には中立的立場にある英国側対応を参考とす
べき旨意見具申

リガ 7月26日午後
本省 7月27日午前

第三六號(極秘)

本官着任以來ノ「メーメル」問題ノ經過ハ郵電第三五號ヲ以テ二十六日郵報セルモ必要アラハ幾分長文ナルモ電報ス

86 昭和9年7月30日
在オーストリア松永公使より
広田外務大臣宛

オーストリアにおけるナチ暴動事件および同
事件後の中欧情勢見通しについて

本機密第八〇号 (8月16日接受)

昭和九年七月三十日

在澳特命全權公使 松永 直吉(印)

外務大臣 廣田 弘毅殿

最近澳國政情(澳國「ナチ」暴動ト獨逸關係其他)ニ
關スル件

本件ニ關シ別紙ノ通報スルニ付御査閱相成度此段申進ス
本信写送付先 独、英、佛、伊「チエコ」

(別紙)

最近澳國政情(澳國「ナチ」暴動並ニ独逸關係等)ニ
關スル観測

一、當國「ナチ」ト「リンテン」(客年八月三十一日附拙信
第一〇九号参照、兇行ノ前日歸國)ニ派ノ澳國政治家ト
ノ間ニハ豫テヨリ「ドルフス」政府顛覆「ナチ」政權樹

ヘキ處

一、要スルニ「リスアリア」側ニ於テハ條約上ノ權利ヲ極限
迄或ハ極限ヲ越エテ利用シ「メーメル」ヲ名實共ニ「リス
アニヤ」化セント努メ獨逸側ニ於テハ一度東部國境變改ノ
時期至ラハ「メーメル」ノ如キハ鎧袖一觸ノニ解決シ得ヘ
キモ夫迄ハ條約所定ノ權利主張及獨系住民ノ保護ヲ爲スニ
止ムルノ態度ヲ執リ居ルモノト認メラル

一、我國ハ「メーメル」ニ對シ殆ント實質の利害關係ナク一
方獨「リ」双方ト友好關係ニアリ故ニ「メーメル」問題ニ
付テハ我ヨリ發議ヲ執ルコトナク意見表示ノ必要ニ迫ラ
ル場合ニモ獨「リ」双方ヨリ提出スル資料ヲ法律的ニ審査
判定スルト共ニ之カ表示ニ當リテハ中立的立場ニアル英國
(英獨關係ハ周知ノ通ニシテ又英カ「リ」國ニ對シ相當ノ
利害ヲ有スルハ最止調印セラレタル通商條約(往電第一〇
二號)ニ依ルモ明カナリ)ノ態度ヲ考慮セラルルヲ上策ト思
考ス

獨ヘ轉電シ、英、佛及壽府ヘ暗送セリ

立ノ計畫アリタルモノノ如クナル處他方當國「ナチ」ハ
獨逸S・A・ノ没落後「ド」政府ニ對シ示威的暴行ニ出
テ居タルモ「ド」首相ノ彈壓ハ本月十四日以来峻烈ヲ極
ムルニ至リタルノミナラス獨逸ヨリノ支援漸ク減少スル
ニ至リタル為自滅ヲ待ツノ外ナキ状態ニ陥リタルヲ以テ
「ド」ヲ殺害シ前記計畫ノ遂行ヲ促サントシタルモ「リ」
ノ逮捕及各地ニ於ケル「ナチ」軍ノ敗北等ニ困リ右計畫
ハ全然失敗ニ歸シタルモノト觀測セララル
一、今回維納ニ於ケル暴徒ハ澳國「ナチ」SS(百六名ハ
「ナチ」運動ニ加リタル為罷免セラレタル澳國將校及兵
卒ニシテ他ハ「ナチ」分子ナリ)トシテ編成セラレ居リ
タルコト判明シタル處此種團體ハ從來常ニ「ミュンヘン」
方面(澳國亡命「ナチ」又ハSA)ヨリノ指令ニ據リ動キ
居リタルニ鑑ミ今回事件ノ決行ニ對シ「ミュンヘン」方
面ノ關係アリタルコトハ容易ニ推察セラルルノミナラス
前記陰謀計畫ニ對シテハ當時獨逸「ナチ」党ノ幹部ニ於
テ關係シ居リタルニアラスヤトモ推察セラルル次第ナル
カ当地「リート」公使カ暴徒ノ獨逸國內收容ヲ引受ケタ
ル旨ノ報道傳ハルヤ旁々關係諸國ノ輿論ハ今回事件ノ責

任ハ結局独逸側ニ在リトナシ著シク激昂シ何等カノ形式ニ依リ奥國ノ独立保障ヲ強フルノ要アルコトヲ力説スルニ至リタリ

三、殊ニ最近奥國內ニ於ケル「ナチ」ノ暴行ハ「バチカン」ト結托シ「ドルフス」殊ニ「スタルヘンベルク」ト結ヒ当國政府ヲ其ノ勢力ノ下ニ置キ独逸勢力ノ侵入ヲ防止シ来レル伊國ノ神經ヲ刺戟シ伊國ハ前記「ド」首相ノ峻嚴ナル取締リト前後シ独逸政府ニ対シ「ナチ」ノ暴行取締方ヲ要求シ若シ其ノ効果ナキニ於テハ伊國ハ自力ヲ以テ奥國ノ治安維持ニ任スヘキコトヲ通告シタル趣傳ヘラレタル矢先トテ今回事件ノ發生ヲ見ルヤ「ムソリーニ」ハ伊奥國境方面(「ブレンネル」及「ケルンテン」)ニ軍隊ヲ出動シ奥國內秩序紊乱シ又ハ「エステルライヒシエレギオン」カ奥國ニ侵入スルニ対シ備フルト共ニ自ラ「ヒトラ」ニ対シ「ナチ」取締方ヲ嚴重要求シタル趣ナルノミナラス「スタルヘンベルグ」副總理ニ書翰ヲ寄セ奥國獨立ノ保障ニ対シテハ今後更ニ積極的態度ニ出スヘキコトヲ告ケテ之ヲ激勵シ伊奥兩國ノ關係ハ著シク緊張シタルノ觀アリタルカ「ヒトラ」ニ於テハ即時「リート」

ル一方伊國及「バチカン」ニ対スル「ヒ」ノ妥協政策ニ対シテハ独逸「ナチ」党内及S.A.残党中ニモ相当ノ反対ヲ豫期セサルヘカラサルヘク「ヒ」ニ於テ果シテ独逸國內ニ於ケル輿論ノ分裂ヲ統制シ得ルヤ否ヤ疑問ニシテ旁々中欧政局ハ奥國問題ヲ中心トシテ再ヒ紛糾状態ニ入レリト觀ラル

87 昭和9年8月29日 在仏國三谷臨時代理大使より 広田外務大臣宛(電報)

仏國でのソ連の反日的宣伝活動に対する対抗措置の必要性について

パリ 8月29日後発
本省 8月30日前着

第四三七號(極秘)

佐藤大使へ

當地御出發後ノ佛蘇關係ヲ觀ルニ獨逸ノ舉措愈兇暴ニシテ今ヤ行詰リ局面打開ノ爲「ザール」問題ニ民心ヲ轉換セント策シ佛獨關係依然緊張シ居ルヲ利用シ蘇ハ益々對佛接近工作ヲ進メ客夏「コット」航空大臣ノ莫斯科訪問ニ對スル

公使ヲ召還シ今回暴徒ニ対シ國境ヲ閉鎖スヘキ旨ヲ声明スルト共ニ自ラ「エステルライヒシエレギオン」ヲ訪ネ「ナチ」ノ鎮撫ニ努メ「ハビヒト」ヲ罷免シタル上更ニ二十六日附「パーベン」宛書翰ヲ公表シ(一)「リ」公使カ奥國大臣及暴徒ノ要求ニ依リ暴徒ヲ独逸國內ニ收容スルコトヲ引受ケタルハ本國政府ノ訓令ヲ待タサル行爲ナルノミナラス奥國內政ニ対スル干渉ナルヲ以テ同公使ヲ罷免スヘキ旨(二)今回事件ハ独逸政府ノ最モ遺憾トスル所ナル一方元來不安定ナリシ歐洲政局ヲシテ一層緊張セシメタルカ此ノ点ニ付テハ独逸側ニ責任ナキ旨及(三)歐洲政局全般ノ緩和ニ寄與シ殊ニ長ク暗雲ニ閉サレ來リタル独逸關係ヲ平常且親善ナル軌道ニ復スルコトハ「ヒ」ノ希望スル所ナルヲ以テ右實現ノ爲独逸政府竝ニ「ザールコミセル」ノ地位ヲ離レ一定ノ期間駐奥公使トシテ「ヒ」ニ直屬シテ其ノ任務ヲ遂行スヘキコトヲ「パ」ニ依囑シ度キ旨ノ意向ヲ發表シ大イニ伊國及關係諸國ノ輿論ヲ緩和セントスルノ努力ヲ示シタルモ現ニ諸國中ニハ「ヒ」ノ責任回避的態度ヲ責ムル向モアリ又奥國政府トシテ「パ」ノ就任ニ対シ無条件ニ同意ヲ與フルヤ否ヤ疑問ナ

答禮トシテ八月初蘇ノ航空主腦者ヲ佛國ニ派遣シ巨大ナル飛行機ヲ以テ蘇軍隊ノ眞價ニ付疑惑ヲ有スル者ヲ眩惑セシメントシタル如キ其ノ顯著ナルモノニシテ東歐「パクト」案ハ獨逸兩國ノ態度ノ爲行惱ミ居ル如キモ聯盟總會ト同時ニ再ヒ論議ヲ見ルヘシト豫想セラル而シテ同案ノ成否如何ニ拘ラス蘇聯邦トシテハ其ノ標榜シ來レル平和政策ノ窮極ノ工作トシテ佛ト同盟關係ニ入り其ノ財的援助ヲ得ンコトヲ期シ其ノ外交工作ノ中心ヲ巴里ニ置キ莫大ナル金ヲ費シ頗ル大掛リノ宣傳啓發ニ努メ居ルコト御承知ノ通ナリ

抑々蘇聯邦問題ハ佛ノ死活問題タル佛、獨關係ノ立場ヨリ日支事件ニ比シヨリ眞劍ニ考ヘ居リ之レ佛國新聞カ日蘇關係ニ大ナル關心ヲ有シ他國新聞ニ比シ遙ニ多クノ記事論說ヲ掲ケ又夫レ丈ケ蘇側カ反日宣傳ヲ爲シ易キ所以ナリト思考ス蘇側ハ從來所謂極東平和政策ヲ呼號スルト同時ニ對日軍事工作ノ完備ヲ誇張シテ佛國有時ノ際充分之ヲ援助シ得ヘキコトヲ宣傳シ又我經濟進出、海軍軍縮ニ關スル我主張ヲ誇大シ日獨兩國ヲ並ヘテ「ナシヨナリズム」ノ權化ト爲シ日獨同盟說ヲスラ流布シ來レルカ今回ノ北鐵交渉停頓、蘇側從業員逮捕事件等ヲ機會ニ日本ハ北鐵奪取ヲ目論ミ居

レリ等猛烈ナル反日宣傳ヲ爲シ今ヤ漸ク日支事件以來我方ニ理解の態度ヲ示シ來レル新聞雜誌ノ一部ニ對シテ迄宣傳ノ魔手及ハントシ居リ今後北鐵交涉、聯盟總會、海軍軍縮交渉等ヲ運リ其ノ策動愈熾烈ヲ極ムルモノト豫想セラルル有様ナリ

當館トシテハ之ニ對シ從來出來得ル限りノ努力ヲ爲シ來リ御出發後モ微力ヲ盡シ居ル次第ナルカ事態右ノ如クナルニ顧ミ此ノ際更ニ我方ニ對シ理解アル態度ヲ有スル向ヲ總動員シ又新ナル方面ニモ大ニ工作シ極力右ニ對抗スルコト緊要ナルヲ痛感シ又海軍々縮豫備交渉ヲ控へ當國輿論ニ對シ我主張ノ徹底ヲ期スル必要アリト存セラル然ル所客年大臣來電第二八八號ヲ以テ電送ヲ得タル金額ハ漸ク費消シタルニ付此ノ際右諸工作ニ要スル費用トシテ至急邦貨十萬圓ノ支出ヲ得度ク就テハ親シク當方ノ事情ヲ具シ右御稟請相仰度ク何分ノ儀至急御回電ヲ請フ

88 昭和9年9月18日

在ポーランド伊藤公使より
広田外務大臣宛

ポーランドにおけるソ連側による反日的宣伝

官ハ勿論下級官吏中ニモ波蘭人相當存在スルコト竝ニ蘇政府官吏ニシテ波蘭ニ親族關係ヲ有スルモノ多数ナルコトハ波蘭ニ於ケル蘇政府ノ行動ヲ容易ナラシムルニ加へ昨年蘇波不侵略協定締結以來兩國ノ政治關係改善セラレタルヲ以テ一層蘇政府ハ行動ノ自由ヲ得ルニ至レルコト申上ケル迄モナシ

右兩國關係ノ改善ヲ期トシ蘇政府ハ波蘭政府ニ對シ自己ニ不利ナル各般ノ事項ニ對シ波蘭政府ノ注意ヲ喚起スルト同時ニ其ノ變更ヲ要求シ殆ト全部成功セルノ状態ナリ本使着任以來ノ事實ヲ見ルモ從來波蘭政府ノ補助ニ依リ存在セル所謂「ウクライナ」政府(「ペトリユーラ」ノ死後「レヴィツキー」ノ主宰セルモノ)ニ對スル補助ノ停止、露國避難民ノ「ワルソー」ニ於テ發行セル新聞(Morja)ノ廢刊、露國避難民ヨリ成ル學生同志會(會員約五百名)ノ解散等其ノ例尠カラス

蘇政府ハ右ノ如キ態度ニ出テタル外波蘭一般國民ニ對シ其ノ文化ヲ宣傳スル爲メ或ハ写真展覽會、或ハ書籍、意匠展覽會ヲ開催セルノミナラス更ニ其ノ軍備ヲ示ス爲メ飛行機竝ニ艦隊ノ波蘭訪問等ヲ見實物ヲ以テ其ノ文化乃至武力ヲ

に對抗手段を講じる必要性につき意見具申

付記

九月十九日付在ポーランド伊藤公使より広田外務大臣宛公信機密公第一七七号

北滿鉄道従業員逮捕問題に対する抗議のため
ポーランド共產党による対日示威運動開催について

機密公第一七五號

(10月27日接受)

昭和九年九月十八日

在波蘭

特命全權公使 伊藤 述史(印)

外務大臣 廣田 弘毅殿

波蘭國ニ於ケル蘇政府ノ宣傳ニ關スル件

歐洲各國ニ於ケル蘇政府直接又ハ第三「インターナシヨナル」ニ依リ近時盛ニ宣傳行ハレ居ル次第ハ御承知ノ通りノ處當國ニ於テモ其ノ宣傳ハ各方面ニ亘リ且相當巧妙ナルモノニシテ其ノ效果必スシモ輕視スヘカラサルモノアリ依テ左ニ蘇政府ノ當國ニ於ケル宣傳狀況竝ニ之カ対策ニ關スル愚見申進ス

一、波蘭ハ蘇聯邦ト接壤國ナル外歴史的關係ヨリ蘇政府ノ高

波蘭國民ニ紹介スルニ努力シ居レリ

右ノ外蘇政府ハ「タス」ヲシテ毎日約千語ノ電報ヲ送ラシメ以テ蘇ノ對外關係竝ニ外交政策ニ關スル報道ヲ与へ波蘭新聞ヲ通シ其ノ宣傳ヲ爲スニ努力シ居レリ

二、右ノ如ク蘇政府ノ不斷ノ宣傳ハ當國上下ヲ通シ東亞特ニ日本ノ事情ニ通セサルノ状態ト合セテソノ効果日ニ増シツ、アリ目下ノ處波蘭國民全体ノ感情ハ別トシテ又政府ノ政策ハ除外スルトスルモ當市ニ於ケル普通ノ人間ハ一般ニ日本ハ極東ニ於テ戰爭ヲ爲シ西比利亞ノ一部ヲ占領セントスル野心ヲ有スルモノナルニ反シ蘇ハ眞ニ平和ヲ愛スルモノニシテ日本帝國主義ノ犠牲トナルモノナリトノ考ヲ有スル如キ状態ニ立至レリ從テ既ニ電報ヲ以テ申進シタル通り當國新聞紙ハ極東ノ状態ヲ論議スルコト盛ニシテ而モ日蘇戰爭ノ避クヘカラサルヲ述フルニ於テ一致シ只日蘇何レカ勝利者タルヤニ關シ意見ノ相違アル位ノ現状ナリ右新聞論戰ハ八月北鐵交涉ノ中止以來一層盛トナリ來レルハ御想像ノコト、存セラル

三、當國ニ於ケル狀況右ノ如キモノアルニ對シ本使ハ着任以來如何ナル方法ヲ以テ之ニ對抗スヘキヤヲ研究シ來リタル

カ其ノ結果一方多少長期的ノ計画ヲ爲スト同時ニ他方ソノ日々ノ対策ヲ講スル必要アルコトヲ認メタリ
長期ニ亘ル計画ニ關シテハ何レ具休案ヲ以テ申進スヘキ筈ナルカ差當リ其ノ日々ノ対策ニ關スル愚見ヲ申進シ度シ「タス」ハ前述ノ如ク毎日平均千語以上ノ電報ヲ送り當地ノ半官通信社(BBC)ヨリ波蘭新聞ニ配布シ居レルニ反シ聯合ノ無線通信ハ御承知ノ通り其ノ語数ニ於テ半分ニモ達セサル程度ニテ既ニ量ニ於テ我方ハ蘇ニ対シ不利ナル地位ニ在リ

(欄外記入一) 更ニ右通信ノ内容ヲ見ルニ(本使ハ「パート」ニ於テ約二ヶ月以來ノ通信ヲ検査セリ)「タス」ノ電報ハ殆ト全部外交問題殊ニ対日關係ヲ蘇側ニ都合ヨク通信スルト同時ニ政府ノ各問題及事件ニ対スル態度ニ關スル記事ニ限定セラレ居ルニ反シ聯合ノ無線通信ハ外交通信ノ外國内事項ニ關スル通信少カラス從テ波蘭新聞紙ハ目下ノ如キ國際狀態特ニ日蘇關係ノ緊張セル時ニ當リ「タス」ノ通信ハ殆ト全部之ヲ掲載スルモ聯合無線通信ニ対シテハソノ中僅カノ部分ノミヲ除キ他ハ掲載ノ價值ヲ認メサル如ク量ニ於テノミナラス通信ノ質ニ於テモ「タス」ハ聯合ニ勝ルコト大ナルモ

現ヲ希望スル次第ナリ
御詮議ノ上御内意御訓令相煩シ度シ

(欄外記入一)

Polska Agencja Telegraficzna

(Reuter League) PAT

(欄外記入二)

現在「バト」ハ聯合ニ対シ通信連絡方ヲ申出テ居レリ

(付記)

機密公第一七七號

(10月10日接受)

昭和九年九月十九日

在波蘭

特命全權公使 伊藤 述史(印)

外務大臣 廣田 弘毅殿

波蘭國ニ於ケル共產黨員対日示威運動ノ件

八月中旬北鐵交渉中止ニ引續キ北鐵従業員ヲ逮捕セリトノ電報當地ニ傳ハリ新聞紙上ニ於テモ日蘇關係悪化等ヲ頻リニ論議スルニ至リタル結果當國労働者中ニハ當館ニ対シ相

ノアル爲メ我方ハ不利ナル地位ニ立チ居ル現状ナリ
四右ノ如キ事情ニ付本使ハ八月中旬以來蘇宣傳ニ対シ何等對抗ヲ試ミント欲シタルモ其新聞材料タル通信ニ於テ劣レルヲ以テ之ヲ爲シ能ハサリシ次第ナリ隨テ對蘇宣傳ノ關スル限り少クトモ至急此点ノミニテモ改善スルコト絶対必要アリト思考セラル「リガ」宛ノ貴電ニ依レハ聯合ハ遠カラス無線放送ノ語数ヲ増加スル趣ナル處當方ノ希望ヲ以テスレハ

(欄外記入二)

(一)少クトモ毎日放送語数ヲ現在ノ倍トスルコト

(二)且通信ノ内容ヲ外交問題ニ限定シ然モソノ通信事項ハ時々其ノ時ニ於テ世界ノ注目ヲ惹キ居ル事件ヲ主トスルコト例ヘハ現下ノ狀況ニ於テハ海軍々縮問題竝ニ日蘇關係ニ關スル通信ヲ主トスルコト

ノ二点ノ實行ヨリ開始セラル、コト肝要ナリト思考セラル右ハ或ハ實行上多大ノ困難アルヘシトハ想像セラル、モ少クトモ當國ヨリ見蘇ノ宣傳ニ対スル一方法トシテ是非可成早ク實行願上度キ次第ナリ新聞紙ノ傳フル所ニ依レハ或ハ紐育竝ニ巴里ニ通信部ヲ設置セラル、御計畫ナルヤニ拝承セルニ付當國ヨリノ觀察右ノ通り申上ケ一日モ早く其ノ實

當屢々日本帝國主義攻撃ノ決議文ヲ提出スルモノアリ他方共產黨員(當國ニ於テハ公ニ政黨トシテ認メラレ居ラサルモ)ハ當館ニ対シ時々示威運動ヲ試ムルノ挙ニ出テ居レリ例ヘハ八月二十八日(夜十時)九月一日(夜八時)及九月十七日(夜九時)既ニ三回ニ亘リ各回約三、四百名示威運動ノ爲メ當館ニ接近セント計リタルモ初回ヲ除キ其他ハ豫メ當館警戒ノ爲メ増派セラレ居タル當國官憲ニ依リ抑止セラレタリ斯クシテ彼等ハ示威運動ノ際大聲ニ日本帝國主義打倒蘇聯邦萬歳ヲ唱ヘタルモ當館ニ対シ實害ヲ加フル程度ニ至ラス

右何等御參考迄御報告申進ス

89 昭和9年10月5日 在独國永井大使より
広田外務大臣宛(電報)

メール問題に対する我が方立場の説明振り

につき請訓

ベルリン 10月5日後発
本省 10月6日前置

第二〇七號

佛宛貴電第二一五號ニ關シ

當國新聞ハ英佛ハ「メーメル」問題ニ關シ法律的審査ノ結果ヲ俟テ嚴重ニ「リシアニア」政府ノ注意ヲ喚起スルニ至ルヘク又伊國モ之ニ倣フヘキコトヲ豫想シ居ル處我方トシテハ本件カ聯盟ノ問題トシテ取扱ハルル限りニ共同シ得サルヘキハ(脱)多ク説明ヲ要セサルモ獨逸ハ聯盟以外ニ於テモ「メーメル」條約締結國ノ注意ヲ喚起シ得ヘキ政治的權利ヲ有スルモノトナシ居リ從テ我方トシテ場合ニ依リテハ右條約締結國トシテノ本件問題ニ對スル立場ヲ獨逸側ニ説明スルノ要アルヘシ而シテ我方トシテハ本件ハ歐洲問題タルノミナラス殊ニ「ナチ」運動カ原因ヲナシ居ルニ鑑ミ妄リニ之ニ介入スヘカラサルハ勿論ナル處「メーメル」條約ニ對スル我方立場ノ説明振リ御回電アリタシ

90 昭和9年10月10日

在仏國三谷臨時代理大使より
広田外務大臣宛(電報)

マルセイユ事件の経過および同事件に対する
仏国側対応について

「陛下カ佛國民ニ對シ「ユーゴースラヴィア」國民ノ不變ノ友情ヲ齎セラレタル際ニ暗殺セラレタル悲報ヲ國民ニ傳ヘ皇后陛下「ユーゴースラヴィア」國民ニ佛國民ノ深厚ナル弔意ヲ表シ陛下ト「バルト」外相トノ共同ノ喪ニ當リ兩國民ハ一層心ヲ一ニスヘシ」トノ趣旨ノ政府宣布ヲ發シ陸海空三軍ハ一箇月間ノ喪ニ服スヘシ「バルト」外相ニ對シ國葬ヲ爲スコトヲ可決シ「ルブラン」大統領ハ「タルジュー」「エリオ」兩大臣ト共ニ九日夜馬耳塞ニ赴キタリ在歐各大使、米、羅及壽府へ郵送セリ

91 昭和9年10月12日

広田外務大臣より
在獨逸永井大使宛(電報)

メーメル問題のような機微な欧州問題には我
が方は介入を回避したき旨回訓

第一〇三號

貴電第二〇七號ニ關シ

「メーメル」問題ニ對スル我方ノ立場ニ付強テ説明ヲ求メラルル場合ニハ在佛大使宛往電第一二五號第一三〇號及第

本省 10月12日後5時0分發

パリ 10月10日後發
本省 10月11日前着

第四七三號

往電第四七一號ニ關シ(「ユーゴ」國皇帝崩御ノ件)

其ノ後各種ノ報道ヲ綜合スルニ「アレキサンドル」一世陛下ハ九日午後四時頃「ピエトリ」海相及「バルト」外相等ノ出迎ヲ受ケ馬耳塞ニ御上陸同外相及同陛下御滯佛中隨行ノ筈ナリシ「ジオルジュ」陸軍中將ト共ニ自動車ニ召サレ上陸所ヨリ御出發後幾何モナク兇漢ニ拳銃ニテ狙撃セラレタルモノニテ陛下ハ御手當ノ爲御運ヒ申上ケタル縣廳ニ於テ程ナク崩御アラセラレ「バルト」外相モ亦間モナク逝去「ジオルジュ」中將ハ重態ナリ兇漢ハ其ノ場ニテ警衛ノ者ニ斬ラレ次テ民衆ノ「リンチ」ニ遭ヒ落命セリ兇漢ハ「ユーゴースラヴィア」「ザクレブ」生ノ者ニテ「マセドニア」革命主義者ナルヘシト云ハルルモ共犯者ノ有無ハ未タ判明セス皇后陛下ハ「ベルグラード」ヨリ特別列車ニテ馬耳塞ニ赴キ同地ニテ皇帝陛下御一行ニ加ハラルル筈ナリシ由ニテ途中ニテ變報ニ接セラレタリ

當國政府ハ陛下崩御ノ報ニ接スルヤ直ニ九日夕閣議ヲ開キ

二一五號ノ趣旨ニテ然ル可ク應酬セラレ度シ

向我方トシテハ「メーメル」問題ノ如キ對獨對露關係上機微ナル歐洲問題ニハ今後共成ル可ク當初ヨリ介入ヲ回避シ度キ方針ナルニ付右御含ミ置アリタシ

貴電ト共ニ在英、佛、伊各大使及「ラトヴィア」壽府ニ暗送アリタシ

92 昭和9年10月15日

在ハルビン森島總領事より
広田外務大臣宛

ユーゴスラヴィア國王暗殺事件に対する在ハ
ルビン白系露人の反応について

機密第一五八六號

(10月22日接受)

昭和九年十月十五日

在哈爾濱

總領事 森島 守人(印)

外務大臣 廣田 弘毅殿

件名

ユーゴースラヴィア國王暗殺事件ト在哈露人ノ

動靜ニ關スル件

(當館警察署長報告要旨)

本件ニ關スル十月十三日附在滿大使宛拙信公領機密第一四四五號寫送付ス

公領機密第一四四五號

昭和九年十月十三日

在哈爾濱

總領事 森島 守人

在滿洲國

特命全權大使 菱刈 隆殿

ユーゴースラヴィヤ國王暗殺事件ト在哈露人ノ

動靜ニ關スル件 (當館警察署長報告要旨)

「ユーゴースラヴィヤ」國王暗殺セラルトノ報一度傳ハルヤ當地白系露人等ノ驚愕悲憤異狀ナルモノアリ各種團體ハ追悼會哀悼電報等ニ忙殺セラレ居ル外白系紙ハ紙面ノ大部ヲ割キ哀悼文ノ掲載狀況ノ報道ニ努メ居ルニ反シ蘇聯赤系側ハ頗ル冷淡ナルモノアリ之等一般ノ動靜調査セル處大要左記ノ通ニ付報告申進ス

記

一、白系露人ト本件ニ關スル關心

賴シ居ル關係上今回ノ御不幸ハ「エミグランド」ニトリテ大ナル損失ト云ハサルヘカラス斯ク全般カ悲憤ニ沈ミ居ル次第ナリ」云々ト

二、白系露人側狀況

1. 軍事總同盟

軍事總同盟ハ十日幹部會議ヲ開キ追悼會執行ニ決シ午後六時三十分ヨリ新市街大直街中央寺院ニ於テ「メレチー」大僧正司祭ノ下ニ大追悼會ヲ舉行セルカ參會者八百名餘ニ達シ何レモ衷心ヨリ哀悼ノ意ヲ表シ中ニハ感極マリテ涕泣スル者多數アリタリト更ニ同盟ハ全同盟員ニ對シ左記命令ヲ發シタル由

全世界ヲ侵蝕シツツアル惡魔ノ兇手ニヨリ我等ニ最モ御仁慈ナル「ユーゴースラヴィヤ」國王「アレクサンダー」一世陛下暗殺サレタリトノ驚クヘク哀レナル電報報道セラレタリ

賢明英氣比類ナク民族的露西亞ノ最モ信賴スヘキ陛下ニハ遂ニ崩御遊ハサレタリ

露西亞軍事總同盟ハ「ユーゴースラヴィヤ」全國民ト共ニ此ノ大ナル損失ノ限リナキ悲ヲ共ニシ且ツ御一家

レギチミスト同盟員タル一露人ノ語ル處ニ據レハ「ユーゴースラヴィヤ」ハ世界大戰前ノ「セルビヤ」カ「チエルノゴリヤ」其他ノ國家及地方ヲ合シ「ロカルノ」條約ニ基キ獨立シタル國ナルカ民族的及宗教的ニ最モ前帝政露西亞ニ接近シ露西亞トハ不可分ノ關係ニアタルモノニシテ大戰カスク擴大サルルニ至リタルハ一ツニ露西亞カ「セルビヤ」ヲ援助シタルニ依ル又暗殺セラレタル「アレクサンドル」第一世陛下ハ特ニ「スラブ」人タル露西亞人ニ好意ヲ有セラレ現在ノ政府要路、陸海軍ヲ始メ警察其他各機關ニ登用セラレ居ル露西亞人極メテ多ク曾テ同國要路ニ斯ク多數ノ露人採用セラレアル件ニ關シ問題ヲ生シ廟議ニ上リタル際陛下ニオカレテハ「我等ハ大戰ニ際シ露西亞帝國及露西亞國民カ我等ニ寄セタル精神的好意ハ永久ニ忘ルル事ハ出來ナイ我等ヲ救ハンカ爲ニ現在ノ如キ悲惨ナル境遇ニ立至レル「エミグランド」露人ヲ救フハ我等ノ義務ナリ」トテ該問題ヲ一蹴セラレタルコトアリ現在「エミグランド」露人ハ「ユーゴースラヴィヤ」國ヲ世界ニ於ケル唯一ノ頼ルヘキ國世界ニ家ナキ「エミグランド」ニ對シテ暖キ手ヲ差延テ吳レル國ト信

ニ對シ衷心ヨリ哀悼ノ意ヲ捧クルモノナリ同盟ハ本日ヨリ十四日間ノ喪ニ服スヘシ

右命令ス

中將 ワエルジビツキー

2. セミヨノフ系機關狀況

當地ニ於ケル「アタマン、セミヨノフ」系代表「バクシエーエフ」ハ十日「セミヨノフ」ヨリ左ノ如キ電報ニ接シタリト公表セリ

記

我等ハ全「エミグランド」ト共ニ「ユーゴースラヴィヤ」國王「アレクサンドル」一世陛下崩御ニ際シ同胞タル「セルビヤ」國民ト其ノ悲ヲ共ニシ三日間ノ喪ニ服サムトス

全「コサツク」並舊極東軍將兵全員ハ衷ノ間制式ノ喪章ヲ附シ各種娛樂場ヘノ出入ヲ禁ス

アタマン、セミヨノフ

3. 北鐵退職露人委員會ノ弔電

北鐵退職露人委員會ハ其大會ノ決議ニ基キ代表「アンドルシケーウイツチ」ハ十一日夕「ユーゴースラヴィ

ヤ」「ベルクラード」ニ向ケ左記電ヲ發信セリ

記

露西亞國民ノ最モ敬愛スル「ユーゴースラヴィヤ」國王陛下不慮ノ崩御ニ驚愕セル哈爾賓北鐵退職露人從業員一同ハ其ノ大會ニ於テ御家族並全「セルビヤ」國民ニ對シ深甚ナル哀悼ノ意ヲ表シ犯人ヲ呪フ事切ナリ

4.露西亞「フアシスト」黨狀況

露西亞「フアシスト」黨ニ於テハ電報ヲ受クルヤ直チ二十日午前十時機關紙「ナシフチ」紙ヲシテ新聞半頁大ノ號外ヲ發行セシメ更二十一日ノ機關紙ニ於テ殆ント全紙面ヲ割キ本件ヲ報道シ十二日ニハ露西亞俱樂部ニ於テ大講演會ヲ開催スル豫定ナリ

5.其他ノ各機關

「レギチミス」同盟ハ十一日新市街西市場寺院ニ於テ追悼會ヲ催シタルカ當地ニ於ケル殆ント全部ノ白系団体、學校等ハ何レモ追悼會又ハ講演會ヲ行ハントシツツアリ

三、當地「セルビヤ」人ノ狀況

當地ニ於ケル「ユーゴースラヴィヤ」人(主トシテセル

變ハ常ニ民族の鬭爭絶エサル「ユーゴースラヴィヤ」ノ事ナレハ國王カ自國民ノ民族的反感ヨリ生セル暗闘ノ犠牲トナリタルモノナルヘキモ佛國外相ハ極メテ有能亦ト得難キ人物ニシテ外相ノ犧牲ハ誠ニ哀惜ニ堪ヘスト國王陛下ノ死ヨリ寧ロ佛外相ノ死ヨリ重大ナル損失ナリト論セリ

五、本件ニ關スル怪奇的風説

本件ニ關シ當地露人間ニハ約二ヶ月前「ユーゴースラヴィヤ」國王並ニ其御一家暗殺セラレタル旨ノ報傳ハリ約一週間ニ亘リ喧傳セラレタルカ其後歐洲ヨリ何等ノ報道無キ爲立消トナリタルコトアリ二ヶ月後ノ今日該風説カ事實トシテ現ハレタルハ本件ノ政治的隱謀ナル事ヲ證スルニ足ルトノ説流布セラレツツアリ今後引續キ各種ノ臆説流布セラルルモノト思料サレ内偵中ナリ

本信寫送付先

外務大臣

駐中華民國公使

在上海、天津、新京、奉天、吉林、間島各總

領事

ビヤ人)ハ約百二十名ナルカ其代表ハ「チエツクスロヴヤツク」領事「ゲニー」ト協議シ十二日新市街中央寺院ニ於テ追悼會ヲ舉行スルコトナレリ

向當地「ユーゴースラヴィヤ」人ハ佛國領事ノ保護下ニアルモノナル處本件ニ關シ特ニ「チエツクスロヴヤツク」領事ト接近シ居ルハ「特ニ本件ニヨリ佛國人ニ對スル反感高マリツツアリト」他面「佛國ノ保護ハ單ニ政治的ヨリ出發シ居ルニ過キス民族のニハ「チエツクスロヴヤツク」人ニ接近シ居ル」モノナルコトヲ證明セラルト追悼會ニ參列セル當署囑託「「セルビヤ」人曰ク「電報ニヨルト犯人ハ「クロワト」人テ「ビョートルカリマン」ナル者ノ由ナルモ「クロワト」人ニハカカル姓名^(姓)ノモノナク今回ノ兇變ハ民族的ノ反感ニヨルモノテハナク佛國カ又ハ蘇聯ノ隱謀ニヨルモノテ犯人ハ恐ラク猶太人タロウ」云々ト

四、蘇聯系狀況

蘇聯系ハ極メテ冷靜ナル態度ヲ持シ居ルカ「ノーワオスチ、ワオストーカ」紙ハ十一日ノ紙面ニ本件電報ヲ掲ケタル外社説ニ「マルセーユ」ノ兇劇ナル題下ニ今回ノ兇

在綏芬河、齊々哈爾、海拉爾、滿洲里各領事
關東軍參謀長 關東憲兵隊司令官
關東廳警務局長

93 昭和9年11月2日

在仏國三谷臨時代理大使より
広田外務大臣宛

仏國における共産党および社会党提携問題に
ついて

公第七二〇號

(11月27日接受)

昭和九年十一月二日

在佛

臨時代理大使 三谷 隆信(印)

外務大臣 廣田 弘毅殿

共産黨、社會黨提携問題報告ノ件

社會黨(S.F.I.O.)ハ「ツーマルグ」内閣組閣以來「カルテル」ノ破レタルハ急進社會黨ノ責任ナリトシ現内閣ハ政爭休止ノ影ニ隠レタル準「フアシスト」的政府ナリト主張シ其諸政策ニハ絶エズ反對ヲ爲シ來リタルカ五月二十日ヨリ二十二日迄「ツールーズ」ニ於テ大會ヲ開キ主トシテ縣會及郡

會議員選舉ノ對策ニ付論議ヲ行ヒ一部ハ現内閣ニ閣員ヲ有スル諸政黨ト爭フベシト唱ヘタルモ結局急進社會黨新社會黨(佛國社會黨)等左派諸政黨トハ妥協スルモ可ナルカ如キ態度ヲ示スル至レリ然シ同黨ハ全面的ニハ現政府ニ反對ヲ表明スルト共ニ機會アル毎ニ秩序ヲ破壞シ混乱ニ乘ジテ輿論ノ趨向ヲ自黨ニ有利ニスベキ意向ヲ有スルモノノ如ク或ハ「ツールーズ」或ハ里昂或ハ「ロリアン」等ニ於テ右派側ノ會合スルヲ利用シ共產黨ト「フロン、コンマン」ヲ結成シ反「フアシスト」ノ示威ヲ行ヒ來レリ一方共產黨ニ於テモ所謂反「フアシスト」運動ノ爲社會黨ト提携セントノ意強ク屢々之カ申出ヲ爲シタルモ社會黨本部ニ於テハ直ニ之ニ應ズルヲ欲セズ共產黨提示ノ條件ニモ異議アリタルガ終ニ七月十五日ノ全國社會黨協議會ニ於テ兩黨提携ノ決議採用セラレタリ其ノ内容大要左ノ如シ

「全國社會黨協議會ハ「フアシズム」及戰爭反對ノ共產黨トノ協同動作ノ提案ヲ受諾ス

契約ノ條項ヲ定メ之カ署名ノ爲社會黨執行委員會(C・A・P・)ニ全權ヲ委任ス

直ニ世界大戰二十周年紀念ノ爲共同示威運動ノ計畫ヲ提

ルコト

三協同動作ノ監督 監督ハ兩黨ニ於テ行フ協同動作ノ性質ヲ定ムル爲又決議ノ実施ニ際シテ生スベキ各種ノ爭議ヲ解決スル爲ニハ社會黨ハ共產黨ニ對シ兩黨代表者ヨリナル協同委員會ノ創設ヲ提議スベシ右機關ハ社會黨聯合ノ公的活動及宣傳ニ関スル規定ニ基ク權利ヲ毀損スルヲ得ズ

右決議ニ基キ二十八日社會黨執行委員會代表ハ共產黨政治代表者ト會シ左ノ協定文ノ起草及採擇ヲ爲セリ

「メーゾン・デ・コオペラトール」ニ於テ社會黨及共產黨代表即チ共產黨ヨリ「トールレス」「ジットン」「ジャック・デユクロ」「スーパ」「マルテル」社會黨ヨリ「セヴラック」「ルバ」「ラゴルジェット」「デクルシイユ」「ジュエスト」「ブリユメル」「ジロムスキ」出席會合セルガ其結果、

次ノ協定ヲ結ベリ、共產黨中央委員會及社會黨常設執行委員會ハ「フアシズム」反對ノ熱烈ナル意思ヲ有ス右目的ハ爭鬪ノ具體的ヲ定メ労働大衆ノ協同活動ニ依ラズンバ達スルコトヲ得ズ労働者階級ノ爲ニハ社會黨及共產黨カ反「フアシスト」ノ協同動作ヲ組織スル要アリ、労働者大衆ニ對

案セントス

國民大衆ノ望ム協同動作ノ實現ニヨリ「フアシスト」ノ脅威ニ對シ確固タル障害ヲ作リタルコトヲ欣快トス協同動作ガ黨ノ主張スル有機的統一ヘノ第一歩ヲ形成スルモノナルコトヲ特ニ欣快トス

而シテ全國社會黨協議會ノ執行委員會ニ与フル委任ハ次ノ條件ヲ含ムモノニシテ協同動作ノ條件ヲ爲スモノナリ。即チ、

一相互ノ信賴、契約期間又共同動作ノ範圍外ニ於テモ兩黨ハ其各黨ノ宣傳及單獨行動ニ於テ侮辱及罵言ヲ謹ムベシ

共同動作實施ニ関シテモ共同目的ノ爲專ラ行ハルベキモノニシテ兩黨ノ主義及政策ニ付テノ議論ヲ避クベシニ協同動作ノ性質、共產黨ト協同シテ「フアシズム」反對ヲ爲スモ民主的自由ヲ束縛スルヲ得ズ從ツテ右行動ニハ此自由擁護ヲ希望スル總テノ人ノミ招請サルベキモノナリ又暴力ニ基ク計畫ヲ回避ス

又労働者階級ノ戰鬥意志ヲ健全ニ保チ大衆ニ倦怠ト無関心トヲ抱カシメザル爲示威運動ヲ余リ頻繁ニナサザ

スル「フアシズム」ノ脅威又「プロレタリア」ニ對スル武装團體ノ脅迫ヲ目前ニ控ヘ共產黨及社會黨ハ共同一致ノ行動ヲ取り其行動ノ形式及條件ヲ定ムルノ必要ヲ感ジタリ一、社會黨及共產黨ハ協同動作ノ協定ヲ結ビ次ノ目的ノ爲ニ全國ニ於テ凡ユル手段(組織、通信、運動者被選舉人等)ヲ用ヒ戰鬥ヲ組織シ之カ實施ヲ計ラントス

(a) 「フアシスト」團體ニ對シ労働者大衆ヲ動員シ其勢力削減及解散ヲ策ス

(b) 民主的自由ヲ擁護シ比例代表制及議會ノ解散ヲ要求ス

(c) 戰爭準備ニ對スル反對

(d) 緊急命令反對

(e) 獨壞ニ於ケル「フアシスト」反對及「テールマン」「カール・サイト」其他監禁反「フアシスト」主義者ノ解散

ニ此運動ハ可及的多數ノ地方及工場ニ於ケル共同會合ニ依リ爲サルベク市街ニ於ケル群集ノ示威運動及反示威運動ヲ行ヒ労働者ノ會合、示威運動團體組織及闘士ノ自衛ノ手段ヲ講ズル事ニヨリ實現セントスルモノナリ、而モ心理的物質的精神的條件ヲ考慮ニ入レ最大ノ強サト大イサ

ヲ与ヘントスルモノナリ。

緊急命令反對運動モ同様ノ手段ニヨリ(會合示威運動等)而モ右命令反對運動ノ擴大ヲ計ル為適當ナル煽動ヲ為シ組織ヲ計ル事トス

此協同動作ニ際シ一黨カ「フアシスト」黨員タル反對者ト衝突シタル時他黨員ハ之カ援助ヲ与フベキナリ。

三、協同動作中両黨ハ何レモ其行動ヲ忠実ニ為ス團體又ハ闘士ニ對シ非議侮辱ヲ控フル事トス

然シ各黨ハ其協同動作外ニ於テハ黨員ノ召集等ニ関シ又宣傳等ノ為ニ完全ニ其自由ヲ保留ス

又協同動作ニ依ル示威運動ハ其共同目的ノ為ニノミ行ハルベキモノニシテ両黨ノ主義及政策ニ関スル矛盾セル論議ヲ生スベキニ非ズ

四、各黨ハ共同動作ニ関シ各自ノ團體内ニ起ルベキ過失及違反ヲ防グベク努力スル事ヲ誓フ

共同示威運動ノ一般計画及性質ヲ定ムル為両黨ヨリ各七名ノ代表者ヲ選出シ共同委員會ヲ組織ス此委員會ハ相互ノ紛争ノ解決ヲ計ル委員會ノ決議ハ共同作成ノ覚書ニ記載セラルル事トシ労働者ニ通告セラル、コトトス

知恵古、「ユーゴ」丈ヲ加ヘ故意ニ羅馬尼ヲ除外シ小協商國ヲ分裂サセントスルモノニテ話ハ行詰リ結局英佛伊ノ共同聲明ニ落着タル次第ナリ「ユーゴ」國王暗殺事件後モ佛國新聞ハ佛伊關係ニ付比較的穩和ナル態度ヲ持シ居ルカ右ハ政府筋ノ意嚮ヲ受ケ居ル次第ニテ佛伊關係ハ實際上仲々困難ナリ阿弗利加問題等ハ第二義的ノモノニテ兩國關係ノ改善ニハ第一ニ伊國カ埃匈等ノ國境改定ノ主張ヲ支持スルコトヲ止ムル必要アリ此ノ點ニ關シ佛國側ニハ伊國ニ對シ少クトモ今後十年間國境現狀維持ヲ約束セシメントスル聲アリ若シ伊國ニシテ之ヲ約束スルニ於テハ佛側トシテハ國王暗殺ニ對スル匈牙利側ノ責任ハ餘リ追求セサルヘシト思ハル

在歐各大使、「チエ」、羅馬尼、波蘭、希、壽府へ暗送セリ

95 昭和9年11月13日

在ラトヴィア佐久間臨時代理公使より
広田外務大臣宛(電報)

バルト協商成立が欧州情勢にもたらした影響について

右協同動作ノ盟約ニ至ル迄ニハ「レオン・ブルム」ノ「ポピュレール」紙ニ連載セル記事ニ見ルモ明カナルカ如ク社會黨ニ於テハ共產黨ノ眞意ニ関シ疑ヲ抱キ居リタルガ如キモ二月六日事件ヲ機トシテ急進社會黨人閣シタル為之レト社會黨トノ連帶關係破レ此ノ際「フアシスト」及戰爭反對ノ標語ノ下ニ右ノ結束ヲ為ス事絶對必要ト感ジタル為多ク少ノ異議ハ之ヲ忍ビ急遽共產黨トノ協同ヲ見ルニ至レリ。

94 昭和9年11月8日

在仏国三谷臨時代理大使より
広田外務大臣宛(電報)

中欧問題をめぐる仏伊關係に關し有力記者より
入手した情報について

パリ 11月8日後発

本省 11月9日前着

第五一三號

佛伊關係及中欧問題ニ關シ有力ナル一外交記者ノ内話セル處御參考迄

九月ノ聯盟總會ニ於テ「バルツ」外相ハ埃太利問題ニテ種々折衝シタルカ最後ニ伊國ノ出シタル妥協案ハ英佛伊ニ

リガ 11月13日後発

本省 11月14日前着

第六八號

佛外相「バルツ」暗殺以後ニ於ケル情勢ノ推移ニ關シ當方面新聞ノ言説及消息通ノ談片ヲ綜合スルニ左ノ如シ

一「バルト」方面ニ於テハ「バルト、アンタント」條約實施ノ結果「バルト」三國ノ「バルト」本位ノ政策強化シツツアリ「ウイユルナ」問題ニ付テハ波蘭側ハ何トカ妥協セント努メ「メーメル」問題ニ付テハ獨逸側ハ目下ノ處理論的抗爭ヲ爲スニ止メ居ル結果何レモ差當リ「バルト、ブロック」ノ大ナル妨害ヲ爲サス又芬蘭ハ從來寧ロ「スカンジナビヤ、ブロック」ニ屬スルヤニ認メラレ居タルカ最近幾分「バルト、ブロック」ニ接近ノ傾向アリ(芬蘭語主義強化ニ對シ瑞典系カ反抗シタルコト其ノ一因ナリト)波蘭ハ依然「バルト」接近(盟主ノ意味ニテ)ヲ策シ居レリト

二(2)攻守同盟ノ成立近キニ在リト迄報セラレタル露佛關係ハ幾分熱度ヲ減シ殊ニ在獨露大使「スリツツ」ノ新任以來露獨再接近説スラアリ又佛、波關係ハ最近幾分ノ好轉ヲ

報セラル

以上ハ尙醞釀ノ途ニ在リテ其ノ何レカ今後發展ヲ續ケ何レカ敵本主義ノ「デマ」ナルヤ判明セサルモ兎モ角注目ヲ要スルモノト認メラル

尙倫敦海軍豫備交渉ニ關シテハ今迄ノ處當方面諸新聞ハ依然事實的報道ニ止マリ帝國カ結局華府倫敦兩條約ヲ廢棄スヘシトノ觀測ハ下シ居ルモ我ニ不利ナル「センセイシヨナル」ノ記事論說ヲ掲ケタルモノヲ見受ケ居ラス右ハ帝國ノ公正ナル眞意ニ歸スル「スポークスマン」ノ説明等カ迅速ニ聯合其ノ他ニ依リ電報セラルルコト末次大將ノ大阪ニ於ケル講演カ寧ロ公正平和的ニシテ聊モ好戰的ナラサリシコト日英ノ(友)好關係カ一般ニ信セラレ居ルコト等ニ因由スルモノト思考ス

在歐各大使、瑞典、波蘭、知惠古、羅馬尼ニ暗送セリ

96 昭和9年11月17日

在仏國三谷臨時代理大使より
広田外務大臣宛(電報)

マルセイユ事件に対するユーゴスラヴィアの連盟提訴問題に関する情報について

發生スルニ至レル事實ヲ詳記シ他方羅馬尼、知惠古ノ兩政府モ右「ノート」ヲ支持スル「ノート」ヲ同時ニ提出スル筈ナリ

尙伊國政府モ從來密カニ「ウスターキー」ニ對シテ幫助ヲ與ヘ二三箇所ノ訓練所ヲ默認シ首領格ナル「パベリツチ」(特情第三二號)ニ金ヲ與ヘ居リタル事實アリ右伊國ノ態度ハ客年十二月「ザグレブ」ニ於ケル國王暗殺計畫ニ參加セル一味ノ一人 Ordo ナル男ノ自白ニ依リ明カトナリタルカ「マルセイユ」事件ニ參加セシ人物ハ幸ニシテ何レモ洪牙利ヨリ來リシモノナルト同時ニ右事實ニシテ公ニナルトキハ政治上其ノ影響大ナルヘキニ顧ミ佛國ニ於テモ「ユーゴ」ニ於テモ之ヲ表沙汰ニセサル様注意シ居ル次第ナリ在歐各大使、知惠古、羅、波蘭、希、壽府ヘ暗送セリ

97 昭和9年12月14日

在仏國佐藤大使より
広田外務大臣宛(電報)

仏ソ相互援助条約、対伊關係等仏国外交の諸問題に関する情報について

パリ 11月17日後発
本省 11月18日前着

第五二九號

兩三日前ヨリ當地新聞ハ「ユーゴ」政府カ「マルセイユ」暗殺事件ヲ聯盟理事會ニ附議スルニ決シ十六日在壽府「ユーゴ」代表「フォティツチ」カ「ラバール」外相ニ面會シタルモ之カ爲ナリト報シ居ル處右ニ關シ往電第五一三號ノ人物ノ内話左ノ通

「ユーゴ」ノ輿論ハ事件以來頗ル激昂シ政府トシテモ何等カノ措置ヲ執ラサルヘカラサル立場ニ置カレタルカ洪牙利ニ對シ制裁ヲ要求スルカ如キハ現在ノ聯盟ニ望ムヘクモ非ス結局最小限ノ措置トシテ規約第一一條第二項ヲ利用シテ洪牙利ノ責任ニ關シ理事會ノ注意ヲ喚起スルコトトナリタリ右「ノート」ハ十九日事務總長ニ交付サルル筈ナルカ右ノ中ニハ既ニ六月中洪牙利カ「クロアイト」ノ「テロリス」ト所謂「ウスターキー」ニ幫助ヲ加ヘ居ルコトニ付注意ヲ喚起シタルカ其ノ際理事會ノ勸告ニ基キ「ユ」洪兩國間ノ國境關係ヲ律スル爲(脫)七月十六日ノ條約モ洪牙利ハ何等遵守セス幫助ヲ續ケ居リタルカ爲「マルセイユ」事件ヲ

パリ 12月14日後発
本省 12月15日前着

第五七五號

佛國外交諸問題ニ關シ諜報者内報左ノ通

(一)「マルシヤンド」商工大臣訪蘇ノ結果莫斯科ニテ署名セラレタル「プロトコール」ハ新通商條約交渉ノ爲來巴スル「ロウゼンゴルツ」着巴ノ二十日ニ巴里、莫斯科兩地ニテ同時發表ノ筈ニテ右條約ト同時ニ本年一月ノ取極ニ代ルヘキ暫定取極ヲ交渉スヘク莫斯科「プロトコール」ハ右暫定取極カ成立シ効力發生スル迄一月取極ノ効力ヲ延長スルモノナルモ異ル點ハ其ノ對佛註文年額二億五千萬法ニ對シテハ之カ増加ノ可能性ヲ認メ(特ニ電氣設備及耕作機械ニ付)「ペトロフイーナ」カ佛國債權ニ對シ與ヘ居ル保障ヲ石油以外ノモノニモ及ホサントスルニアリ唯蘇側ハ之カ代償トシテ「クレヂット」ヲ要求スルモ此ノ點「マルシヤンド」モ大イニ躊躇シ居レリ然シ蘇側ハ他國ニ對シテモ盛ニ「クレヂット」ヲ希望シ居ル由ナリ
(二)「ラバール」外相ノ訪伊ニ付同外相ハ最近壽府ニ於テ成立セル「ザール」問題及馬耳塞暗殺事件ニ關スルニ協定ノ

良好ナル效果ヲ滅却スルヲ欲セサルヲ以テ佛伊間ニ協定ノ確實性ナキ限リ羅馬ニハ行カスト言ヒ居リ同外相ハ過般ノ理事會ニ於テ「アロイジ」ニ對シ伊國カ「ユーゴースラビア」ノ統一尊重ノ宣言ヲ爲サンコトヲ希望シ「ア」ハ之ニ對シ右ハ可能カト思フモ「ムツソリーニ」カ最近ハ以前ヨリモ幾分氣乘薄ナリト言ヒシ由ニテ佛國政府側ニテハ伊國洪牙利間ニ最近秘密協定出來シニアラスヤヲ疑ヒ居レリ

(三)一般軍縮問題ニ付十三日在佛英國大使「ラバール」外相ヲ訪問シ佛國カ英國政府最終覺書案ノ基礎ニテ軍縮條約締結ノ意嚮無キヤヲ探リタルカ之ニ對シ同外相ハ(一)今軍縮一般條約ニ署名スル政府ハ直ニ倒サルヘシ(二)佛國政府ハ飽迄四月十七日附覺書ノ趣旨ヲ固持スルモノニハ非サルモ假令軍縮條約交渉ニ先チ佛カ「ザール」問題ニ付示シタル誠意

ニ應ヘ同地域ノ人民投票ノ機會ニ其ノ善意ヲ示シ投票ノ結果ヲ實行シ東歐「パクト」ニ對シ好意的態度ヲ示シ奧太利ノ獨立尊重ノ聲明ヲ爲サンコトヲ希望スト述ヘタル由ナリ

(三)海軍軍縮ニ關シ「ピエトリ」海相ハ日本ノ華府條約廢棄トハ獨立ニ佛國モ同條約ニ對シ満足シ居ラサル趣旨ヲ適當ナル形式ニテ公表セサレハ將來其ノ獨自ノ主張ヲ爲スニ付立場弱カルヘシトテ之ヲ考慮シ居ルヤノ趣ナリ

(四)東歐「パクト」案ニ關スル佛、蘇「プロトコール」ハ十一月二十六日巴里ニテ「バラフエ」サレ十二月五日壽府ニテ署名セラレタル由ナリ(往電第五四七號及特情第五三號御參照)

在歐各大使、壽府、知惠古、波蘭、羅馬尼、「ラトビヤ」ヘ暗送セリ

付 東欧ロカルノ構想を中心とするソ連の動向

98 昭和9年3月24日

在ルーマニア藤田(栄介)公使より
広田外務大臣宛(電報)

小協商諸國のソ連邦承認問題等に関するル

マニア外相の談話について

ブカレスト 3月24日後発
本省 3月25日後着

第一七號

本使二十三日「テイテユレスコ」ヲ訪問各種ノ問題ニ付意見ヲ叩キタル處其ノ談話ノ要旨左ノ通ナリ

一、近頃頻リニ小協商ノ蘇聯邦承認問題カ傳ヘラレ居レル處匈牙利及勃利カ伊國ノ差金ニ依リ同聯邦ヲ承認シタル爲小協商三國ノミ取殘サレタル形トナリ居ル關係上「ベネシユ」ハ速ニ小協商トシテ右承認ヲ實行スルコトヲ希望シ居レリ「ユーゴスラビヤ」モ大體之ニ賛成シ居レルカ羅馬尼ハ特別ノ立場ニ在ル爲慎重ノ考慮ヲ加ヘツツアリシカ最近蘇聯邦トノ關係著シク緩和シタルヲ以テ自分トシテモ大體承認ノ時期ニ達セリト思考シ居レリ唯小協

商ト蘇聯邦トハオ互ニ代表者ヲ交換シ居ラサル爲如何ナル方法ニ依リテ右交渉ヲ開始スルカヲ考ヘル必要アル上目下小協商政府間ニ本件ニ關シ具體的ニ話合カ進ンテ居ル譯ニモ非サルヲ以テ其ノ時期ノ如キハ素ヨリ確言スルコトヲ得ス

二、日本及獨逸ノ聯盟脫退ニ對スル對應策トシテ常ニ巧妙ナル外交政策ヲ編出ス「ソヴイエット」ノ首腦者カ聯盟加入ヲ考慮シ居ルコト(若ハ考慮シ居ルカ如ク見セ掛ケ居ルコト)ハ誠ニ有リソウナ事ナルカ「ソヴイエット」ノ從來ノ主張ト聯盟規約ノ精神トハ根本的ニ相容レサルモノアルカ故ニ「ソヴイエット」カ聯盟ニ加入スル時ハ「ソ」カ「ソ」テ無クナル時カ聯盟カ聯盟テ無クナル時カテアルコト丈ケハ確カナリ本件ハ實現不可能ニ非サレト前途頗ル遠遠ナル問題ナリ

三、伊歐匈三國間ノ羅馬協定ハ小協商ト「バルカン、パクト」トノ兩者ニ對シ同時ニ一撃ヲ加ヘントスル「ムソリーニ」ノ意圖ニ出テタルモノナル事ハ餘リニモ明瞭ナル處其ノ協定ノ内容ニハ何等目新シキモノ無ク經濟的議定書モ極メテ漠然タルモノナリ昨日自分ヲ來訪シ羅馬尼ノ右議定